

マネジメント研究科 マネジメント研究科 専門職学位課程 (2011年度入学)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■ベーシック科目	マネジメント総論		1	2	
	閉講	1年			
	経営戦略	2学期	1	2	1
	高橋 秀直	1年			
	マーケティング	1学期	1	2	2
	丸田 秀一郎	1年			
	アカウンティング	1学期	1	2	3
	任 章	1年			
	ファイナンス	2学期	1	2	4
	武田 寛	1年			
	人材マネジメント	1学期	1	2	5
	鳥取部 真己	1年			
	組織とリーダーシップ	2学期	1	2	6
鳥取部 真己	1年				
■アドバンスト科目	企業の社会的責任と倫理	1学期	1	2	7
	齋藤 貞之	1年			
	地域づくり総論	1学期	1	2	8
	城戸 宏史	1年			
	公共経済学		1	2	
	閉講	1年			
	マーケティング戦略	2学期	1	2	9
	佐藤 章	1年			
	会社法	1学期	1	2	10
	高橋 衛	1年			
知識マネジメント	1学期	1	2	11	
越出 均	1年				
管理会計	1学期	1	2	12	
梅澤 俊浩	1年				
パブリック・マネジメント	1学期	1	2	13	
永津 美裕	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■アドバンスト科目	財務会計 任 章	2学期	2	2	14
	2年				
	地域産業 柳井 雅人	2学期	1	2	15
	1年				
	国際ビジネス・スキル アダム・ヘイルズ	1学期	1	2	16
	1年				
	ロジスティックス 藤村 幸弘	集中	2	2	17
	2年				
	問題解決スキル 平山 克己	1学期	1	2	18
	1年				
	チーム・マネジメント 山口 裕幸	集中	2	2	19
	2年				
	環境ビジネス 松永 裕己	1学期	1	2	20
	1年				
国際経営 王 効平	1学期	1	2	21	
1年					
■エグゼクティブ科目	ベンチャー・ビジネス 越出 均	2学期	1	2	22
	1年				
	戦略的提携と事業創造 林 秀美	1学期	2	2	23
	2年				
	フィナンシャル・インベストメント 武田 寛	1学期	2	2	24
	2年				
	中国ビジネス 高橋 基人	1学期	2	2	25
	2年				
	環境政策 垣迫 裕俊	1学期	2	2	26
	2年				
医療マネジメント 舟谷 文男	1学期	2	2	27	
2年					
福祉マネジメント 芳賀 祥泰	1学期	2	2	28	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■エグゼクティブ科目	開発管理		2	2	
	閉講	2年			
	ビジネス中国語	2学期	2	2	29
	松下 丹紅	2年			
	自治体政策	2学期	2	2	30
	吉村 弘	2年			
	モノづくり競争力の強化	2学期	1	2	31
	雨澤 政材	1年			
	ソーシャル・ビジネス	1学期	1	2	32
	松永 裕己	1年			
	医療経済	2学期	1	2	33
	舟谷 文男	1年			
	社会保障	2学期	1	2	34
	杉原 好則	1年			
	自治体経営	2学期	1	2	35
	永津 美裕	1年			
	イノベーション・マネジメント	2学期	2	2	36
	鳥取部 真己 他	2年			
基礎中国語	1学期	2	2	37	
王 占華	2年				
産学連携と事業創造	1学期	2	2	38	
城戸 宏史	2年				
ホスピタリティ・マネジメント	2学期	2	2	39	
田村 馨 他	2年				
アジア型経営	1学期	2	2	40	
王 効平 他	2年				
公的プロジェクト・マネジメント	1学期	2	2	41	
片山 憲一	2年				
NPO / NGO実践論	2学期	2	2	42	
奥田 知志	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■プロジェクト研究科目	グループディスカッションI 王 効平	1学期	1	2	43
		1年			
	グループディスカッションI 鳥取部 真己	1学期	1	2	44
		1年			
	グループディスカッションI 城戸 宏史	1学期	1	2	45
		1年			
	グループディスカッションI 越出 均	1学期	1	2	46
		1年			
	グループディスカッションI 高橋 秀直	1学期	1	2	47
		1年			
	グループディスカッションI 武田 寛	1学期	1	2	48
		1年			
	グループディスカッションI 永津 美裕	1学期	1	2	49
		1年			
	グループディスカッションI 任 章	1学期	1	2	50
		1年			
	グループディスカッションI 松永 裕己	1学期	1	2	51
		1年			
グループディスカッションII 王 効平	2学期	1	2	52	
	1年				
グループディスカッションII 鳥取部 真己	2学期	1	2	53	
	1年				
グループディスカッションII 城戸 宏史	2学期	1	2	54	
	1年				
グループディスカッションII 越出 均	2学期	1	2	55	
	1年				
グループディスカッションII 高橋 秀直	2学期	1	2	56	
	1年				
グループディスカッションII 武田 寛	2学期	1	2	57	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■プロジェクト研究科目	グループディスカッションII 永津 美裕	2学期	1	2	58
		1年			
	グループディスカッションII 任 章	2学期	1	2	59
		1年			
	グループディスカッションII 松永 裕己	2学期	1	2	60
		1年			
	プロジェクト研究I 王 効平	1学期	2	2	61
		2年			
	プロジェクト研究I 林 秀美	1学期	2	2	62
		2年			
	プロジェクト研究I 丸田 秀一郎	1学期	2	2	63
		2年			
	プロジェクト研究I 鳥取部 真己	1学期	2	2	64
		2年			
	プロジェクト研究I 城戸 宏史	1学期	2	2	65
		2年			
	プロジェクト研究I 越出 均	1学期	2	2	66
		2年			
	プロジェクト研究I 高橋 秀直	1学期	2	2	67
		2年			
プロジェクト研究I 武田 寛	1学期	2	2	68	
	2年				
プロジェクト研究I 永津 美裕	1学期	2	2	69	
	2年				
プロジェクト研究I 任 章	1学期	2	2	70	
	2年				
プロジェクト研究I 松永 裕己	1学期	2	2	71	
	2年				
プロジェクト研究II 王 効平	2学期	2	2	72	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■プロジェクト研究科目	プロジェクト研究II 林 秀美	2学期	2	2	73
		2年			
	プロジェクト研究II 丸田 秀一郎	2学期	2	2	74
		2年			
	プロジェクト研究II 鳥取部 真己	2学期	2	2	75
		2年			
	プロジェクト研究II 城戸 宏史	2学期	2	2	76
		2年			
	プロジェクト研究II 越出 均	2学期	2	2	77
		2年			
	プロジェクト研究II 高橋 秀直	2学期	2	2	78
		2年			
プロジェクト研究II 武田 寛	2学期	2	2	79	
	2年				
プロジェクト研究II 永津 美裕	2学期	2	2	80	
	2年				
プロジェクト研究II 任 章	2学期	2	2	81	
	2年				
プロジェクト研究II 松永 裕己	2学期	2	2	82	
	2年				

# 経営戦略【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年				
対象入学年度 /Year of School Entrance	2002		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
										○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

経営戦略の理論と技法，その応用分析を中心的な内容とした講義を行う。理論とデータ加工によって，分析的に思考するスキルを高めながら戦略的思考力を高めることが本講義の目的である。本講義の到達目標は，経営戦略に関する基本的な理論や考え方を習得し，それらを用いて自分なりの視点から経営戦略を策定することができるようになることである。なお，講義の前半に事業戦略を，後半に全社戦略を扱う。授業は，講義を基本とするが，事前にリーディングや戦略分析に関する小レポートなどを提出してもらい，受講生と討議する時間を設ける予定である。

## 教科書 /Textbooks

特に，指定せず，適宜資料を配布する。  
(なお，ケースを用いる場合，そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

奥村昭博『経営戦略』日経文庫  
石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
  - ②戦略とは何か?【定義，戦略的な思考法】
  - ③戦略とは何か?【戦略の担い手，ドメイン】
  - ④事業戦略(業界の構造分析)【Five-Forces:全体像，既存企業間の対抗度】
  - ⑤事業戦略(業界の構造分析)【新規参入の脅威，売り手と買い手の交渉力】
  - ⑥事業戦略(業界の構造分析)【代替品の脅威，まとめ】
  - ⑦事業戦略(ゲーム論的な考え方)【価値相関図】
  - ⑧事業戦略(ゲーム論的な考え方)【戦略的行動】
  - ⑨事業戦略(企業の内部分析)【価値連鎖，活動マップ，RBV】
  - ⑩事業戦略(企業の内部分析)【学習アプローチ】
  - ⑪全社戦略(垂直統合)【取引コスト】
  - ⑫全社戦略(多角化の論理と種類)【多角化のタイプ】
  - ⑬全社戦略(PPMとその応用)【PPM】
  - ⑭全社戦略(戦略と組織)【組織は戦略に従う】
  - ⑮まとめ
- なお，授業の内容は，進捗状況や受講生の興味等に応じて，変更する可能性がある

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度30%、小レポート30%、期末レポート40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営に関する知識があることが好ましいが，前提とはしない。  
予習や復習には，かなりの時間が必要となる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# マーケティング【夜】

担当者名 /Instructor 丸田 秀一郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

**授業の概要 /Course Description**  
 これからマーケティングを学ぶ者にとって必須である「マーケティングとは売れる仕組みを作る事」の基本概念、及び市場に自然法則的に存在する理論の基礎を習得する。同時にマーケティング特有の「用語」についても触れる。国内大手企業の管理者教育用に開発された実務レベルの教材を基に、K2BS用に独自に編纂した資料を用い、実例を交え判りやすく解説する。将来、経営戦略としてのマーケティングを目指す為の入門編。

**教科書 /Textbooks**  
 「マーケティング (pdf 約68MB)」「マーケティング用語集 (pdf 約7MB)」を初回授業時に電子データにて提供。USB等電子媒体の準備が必要。(国内大手企業における管理者初級教育クラス用教材をK2BS向けに独自編纂)

**参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )**  
 NE日経エレクトロニクス、日本経済新聞、日経Automotive Technology等、業界専門誌。  
 日本能率協会「技術マーケティング」等、一般マーケティング関連書籍。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- ①産業界構造と企業が求める人材等 (マーケティングを学ぶ為の準備)  
 【企業教育】【商材分類】【アプリケーション】【企業体内時計】【マーケティング心理学】
  - ②最近の市場動向とアンゾフの成長ベクトル (最近の市場に対する基本的考え方)  
 【商材の分化・肥大化】【時間のドリフト】【アンゾフの成長ベクトル】
  - ③④マーケティングと経営戦略 (マーケティングとは)  
 【基本4戦略】【統合市場戦略】【市場ライフサイクル】【ドメイン】【キャズム】
  - ⑤⑥需要戦略 (新商材創出、新規市場創出の基本)  
 【プロセスフローチャート】【4P】【Push-Pull戦略】【MOT】
  - ⑦⑧競争戦略 (シェア争奪の基本的考え方: マイケルポーター)  
 【SBU】【相対的経営資源】【競争地位】【戦略定石】【シェア争奪戦】
  - ⑨⑩営業戦略 (リテリングの実態)  
 【ランチェスターの法則】【クーポンの目標値】【射程距離理論】【弱者強者の戦い】  
 【エリアマーケティング】【ディスプレイマーケティング】【営業広告活動】
  - ⑪コスト戦略 (製造・販売部門とマーケティング部門の係わり)  
 【製品と商品】【コストと価格】【マネーフロー】【おまけ論】【付加価値の定量化】
  - ⑫国際マーケティングの基本 (海外進出の為の心構え)  
 【国内マーケティングとの相違】【三段階の事業ステージ】
  - ⑬企業の小集団活動と分析手法 (マーケティングに適応出来る簡易分析手法紹介)  
 【6σ手法】他
  - ⑭ケーススタディ (ディスカッション)
  - ⑮纏めとハイライト (全カリキュラムをハイライトで復習する)

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 課題に対するレポート (50%)、ディスカッションに対する貢献度 (30%)、プレゼンテーション (20%)

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 マーケティングの専門用語等 (初回にテキスト提供) を事前に予習しておく事が望ましい。また産業系メディア等で最近の市場動向を良く把握しておく事が授業内容の理解に役立つと考えられる。

**履修上の注意 /Remarks**  
 基本的に、2コマ連続の隔週開講とします。配布した資料は繰り返し使用する事があるので、常に受講時は持参のこと。

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**  
 実際の国内大手企業で実施されている社内教育を、そのまま再現しました。将来、企業経営者・管理者を目指す方々のベースとなる教科です。また、この基本的な内容は、ビジネス系受講生のみならずソーシャル系の方々等にも大いに役に立つと考えます。

**キーワード /Keywords**  
 授業計画・内容に記載した【 】内の用語。

# アカウンティング【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

アカウンティングはビジネスの世界の共通言語である。本講座にあつてはビジネススクールの履修者に期待される水準の財務会計の基礎知識を学ぶ機会が提供される。まずは大学学部における財務諸表論と重なりあふ論点を確認してゆくが、その後は財務諸表分析、さらには企業のディスクロージャー戦略にまで考察を加えてゆく。講義コンテンツは、特に英文(カタカナ)会計用語のリテラシーがある程度まで得られるよう、デザインされている。本講座の到達目標は、受講後、修了者が、企業の財務報告とその制度に実際に関心を持ち、必要に応じ、財務諸表に示された報告数値の意味を解釈、分析できるようになることである。

## 教科書 /Textbooks

『Accounting～IFRS水準の企業開示を理解するための諸論点～』(第5版、2012年3月刷)  
(初回の教室にて無償配布)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

ロバート・アンソニー/レスリー・パウルマン著 西山茂監訳(2007年)『アンソニー会计学入門』東洋経済新報社(但し購入は任意)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主として以下のコンテンツを、各々モジュールとして積み上げて行く(但し、プレゼンテーションの時間をとる等の事情により、講義順は大きく変わることがある)。

①オリエンテーション:本講座の領域と目的、課題について。

【オリエンテーション】

②企業とアカウンティング:会計の役割と機能について。

【会計の役割と機能】

③GAAPとは何か:US-SFASとIFRSについて。

【GAAP】

④バランスシートの機能について。

【B/S】

⑤P/Lの機能について。

【P/L】

⑥キャッシュフロー計算書の作成方法とその機能について。

【キャッシュフロー】

⑦簿記とアカウンティング・サイクルの一巡について。

【アカウンティング・サイクル】

⑧決算修正:アクルール処理とその会計倫理上の限界について。

【アクルール】

⑨ディスクロージャー:脚注情報とMD&Aについて。

【ディスクロージャー】

⑩情報信頼性の担保方法:監査報告書について。

【監査】

⑪財務諸表分析の基礎的アプローチ方法について。

【財務諸表分析】

⑫年次報告とIRについて。

【アニュアルレポート】

⑬隣接領域と意思決定会計への展望について。

【意思決定】

⑭MBAアカウンティングのWrap-Up。

【MBA】

⑮アドバンスト財務会計への展望

【財務会計】

...以上のモジュールを、受講者の意欲とニーズを量りつつ、ウェイト配分を微調整しながら講義する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートそのものの質(15%程度)、プレゼンテーションの積極性やディスカッションに際しての貢献度(15%程度)、期末試験の成績(70%程度)、を適宜ウェイト付けし、総合的に判断します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# アカウンティング【夜】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部生が学ぶ簿記論の授業等とはアプローチが全く異なるので、特に簿記会計の知識経験がなくとも、授業内容は十分に理解できます。その他、必要なことはその都度、教室にて事前に連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

配布プリント等の教材は、各回、毎回教室に持参してきてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は一方通行の講義をするのではなく、双方向のコミュニケーションをとりたいと考えています。そのためにも、履修者がテーマを選んで自発的にプレゼンテーションをする機会を設けたいと考えています。

## キーワード /Keywords

上記の中でも特に、簿記、GAAP、IFRS、B/S、P/L、キャッシュフロー計算書。

# ファイナンス【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

①～⑥では、ファイナンスとは何かを学び、金融システムを概観し、ファイナンシャル・プランニングの意思決定について学ぶ。⑦～⑩では、ファイナンスに関する意思決定を家計や企業が行う際の応用について学ぶ。⑪～⑭では、コーポレートファイナンスのさまざまな問題（資本計画、資本構成など）についてさらに詳しく学ぶ。  
到達目標は以下のとおり。①ファイナンスの基礎知識を身につけ、ファイナンシャル・プランニングの意思決定を理解する、②ファイナンス理論を理解し、企業や家計についてのファイナンスの意思決定ができるようになる、③コーポレートファイナンスの問題についてファイナンスの分析ができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

ポディ & マートン & クリートン 著、大前恵一朗 訳、(2011) 『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ブリーリー & マイヤーズ & アレン 著、藤井真理子・国枝繁樹 (監訳) (2007) 『コーポレート・ファイナンス (第8版)』日経BP社ほか

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①ファイナンスとは何か (1) イントロダクション  
【ファイナンスの定義】【ファイナンスを学ぶ目的】【家計の意思決定】【企業の意思決定】【企業組織の形態】
- ②ファイナンスとは何か (2) 企業経営の目標  
【所有と経営の分離】【企業経営の目標】【企業買収】【企業内ファイナンス・スペシャリストの役割】
- ③金融システム (1)  
【金融システム】【資金循環】【金融仲介の機能】【金融の発達と「神の見えざる手」】【金融市場】
- ④金融システム (2)  
【市場利子率】【金融仲介機関】【金融インフラと規制】【政府・準公的機関】
- ⑤ファイナンシャル・プランニング (1)  
【ファイナンシャル・プランニングのプロセス】【ファイナンシャル・プランニング・モデルの設計】
- ⑥ファイナンシャル・プランニング (2)  
【成長と外部資金調達の必要性】【運転資本管理】【流動性と現金計画】
- ⑦貨幣の時間的価値 (1)  
【複利計算】【現在価値と割引】【割引現在価値による意思決定】【複数のキャッシュフロー】
- ⑧貨幣の時間的価値 (2)  
【年金 (アニュイティ)】【外国為替レートと貨幣の時間的価値】【インフレーションとDCF分析】【税金と投資の意思決定】
- ⑨ライフサイクル・ファイナンシャル・プランニング (1)  
【ライフサイクル・モデルにおける貯蓄】
- ⑩ライフサイクル・ファイナンシャル・プランニング (2)  
【社会保障】【税法上の特典の利用】【大学院への進学】【借りるべきか、買うべきか】
- ⑪資本計画の基礎 (1)  
【プロジェクト分析】【NPV投資ルール】【プロジェクトのキャッシュフロー予測】【資本コスト】
- ⑫資本計画の基礎 (2)  
【感応度分析】【コスト削減プロジェクトの分析】【異なった期間のプロジェクト】【相互に排他的なプロジェクトのランキング】
- ⑬資本構成 (1)  
【内部資金調達と外部資金調達】【株式による資金調達】【負債による資金調達】【資本構成の中立性】
- ⑭資本構成 (2)  
【コストの削減】【利益相反】【ファイナンスに関する意思決定の実際】【レバレッジされた投資の評価】
- ⑮まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度 30パーセント  
課題の提出 70パーセント

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# ファイナンス【夜】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本経済新聞を購読することが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 人材マネジメント【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

企業戦略達成に向けて、人材マネジメントをいかに行うかを学ぶ。企業の人材マネジメントを構成する各機能にまつわる分析と、それらを結合して人材マネジメントシステムを作り上げるための視点の学習を進めていく。各講義回では、ミニ・ケースや雑誌・新聞記事を読み、あるいは映像を見て事例分析やケース・ディスカッションを行い、基礎的な諸理論の理解と実践力の向上を図る。本講義の到達目標は、人材マネジメントを実践するうえでの基礎的な知識を習得することである。

## 教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布する。なお、ケースを用いる場合、そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。なお、企業の人材マネジメントについての初学者は、参考書のいずれかの通読を推奨する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

守島基博『人材マネジメント入門』日経文庫,2004年。  
高橋俊介『人材マネジメント論 新版』東洋経済新報社,2006年。  
フェアファースト『人材を活かす企業』翔泳社,2010年。  
今野浩一郎&佐藤博樹『人事管理入門<第2版>』日本経済新聞社,2009年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦略と人材マネジメント(1)【SHRM、戦略人材】
- 2回 戦略と人材マネジメント(2)【三種の神器、ベストプラクティス】
- 3回 フロー・マネジメント(1)【採用】
- 4回 フロー・マネジメント(2)【人材像】
- 5回 評価・報酬マネジメント(1)【職能資格制度、職務給制度】
- 6回 評価・報酬マネジメント(2)【MBO、成果主義、年俸制】
- 7回 人材育成(1)【OJT、Off-JT】
- 8回 人材育成(2)【CDP、サクセッション・プランニング】
- 9回 フロー・マネジメント(3)【ダイバーシティ】
- 10回 フロー・マネジメント(4)【定年延長、アウトプレースメント】
- 11回 労使関係(1)【集団的労使関係、個別的労使関係】
- 12回 労使関係(2)【訴訟】
- 13回 戦略的な人材マネジメント(1)【人材マネジメントシステム評価】
- 14回 戦略的な人材マネジメント(2)【人材マネジメントシステム設計】
- 15回 講義のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度50%、小レポート10%、期末レポート40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習や復習にはかなりの時間が必要となる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 組織とリーダーシップ【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、組織とイノベーションにまつわる理論・枠組みを学ぶ。コースの前半ではミクロ組織論を中心とした理論基盤の学習を行う。コース後半では、企業の変革や新商品創出にまつわるイノベーション・マネジメントと組織との関連についての学習を行う。各講義回では、ミニ・ケースや雑誌・新聞記事を読み、あるいは映像を見て事例分析やケース・ディスカッションを行い、基礎的な諸理論の理解と実践力の向上を図る。本講義の到達目標は、組織マネジメントとイノベーション・マネジメントを実践するうえでの基礎的な知識を習得することである。

## 教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布する。なお、ケースを用いる場合、そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ ロビンス著,高木晴夫監訳『組織行動のマネジメント(新版)』ダイヤモンド社,2009年.
- ・ 金井壽宏『経営組織』日経文庫,1999年.
- ・ 金井壽宏『リーダーシップ入門』日経文庫,2005年.
- ・ 一橋大学イノベーション研究センター(編)『イノベーション・マネジメント入門』,日本経済新聞社,2001.
- ・ 延岡健太郎『MOT"技術経営"入門』日本経済新聞社,2006年.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 個人と集団(1)【グループダイナミクス】
- 2回 個人と集団(2)【グループシフト、凝集性、集団圧力】
- 3回 個人の特性とモチベーション(1)【内容説、欲求階層説、二要因説】
- 4回 個人の特性とモチベーション(2)【期待理論、目標設定理論】
- 5回 職場組織とリーダーシップ(1)【偉人説、基本二次元】
- 6回 職場組織とリーダーシップ(2)【コンティンジェンシー理論】
- 7回 企業変革とリーダーシップ(1)【変革型リーダーシップ】
- 8回 企業変革とリーダーシップ(2)【企業変革、変革プロセス】
- 9回 イノベーションと組織(1)【イノベーション】
- 10回 イノベーションと組織(2)【組織能力、コア技術】
- 11回 組織のイノベーション(1)【製品開発組織、重量級PM】
- 12回 組織のイノベーション(2)【未来型組織】
- 13回 イノベーションと創造性(1)【創造性】
- 14回 イノベーションと創造性(2)【人材育成】
- 15回 講義のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度50%、小レポート10%、期末レポート40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習や復習にはかなりの時間が必要となる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 企業の社会的責任と倫理【夜】

担当者名 齋藤 貞之 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「経営」と「倫理」とは従来、矛盾・対立するものと捉えられてきた。これは古来から問いかけてきた人間行為のジレンマを示してきた。果たして、このジレンマは、現代のマネジメント(経営)に携わる人間にとって、依然として二者択一的課題であるのか、あるいは両立するものなのか。この講義では、このジレンマを解き明かすことが、現代経営の最大の課題であることを、理論と実践を通してとらえることを目的とする。

マネジメントの内実は、営利企業であれ、非営利組織であれ、その本質は共通している。講義をとおしてMBA資格を取得することは、プロフェッショナルとしての職業倫理を身につけることが前提であることを学習する。プロとしての自覚である。講義はディベートを中心とする。評論家ないしはバイ・スタンダーとしてではなく、実践する主体として一人称で語りあえる講義にしたい。

## 教科書 /Textbooks

その都度、指定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

J.E.Poat, A.T.Lawrence and J.Weber, Business and Society: Corporate Strategy, Public Policy, Ethics, 2002 (松野・小坂・谷本訳『企業と社会: 企業戦略・公共政策・倫理(上・下)』、ミネルヴァ書房、2012年)

P.F. Drucher, Management: Tasks, Responsibilities, Practices, 1973 (上田淳生訳『マネジメント:課題・責任・実践』、ダイヤモンド社、2008年)

L.I. Nash, Good Intentions Aside: A Manager's Guide to Resolving Ethical Poblems, 1990 (小林俊治・山口善昭訳『アメリカの企業倫理: 企業行動基準の再構築』、日本生産性本部、1992年)

T.R. Piper, M.C. Gentile and S.d. Parks, Can Ethics Be Taught?: Perspectives, Challenges, and Approaches at Harvard Business School, 1993 (小林俊治・山口善昭訳「ハーバードで教える企業倫理」、生産性出版、1995年)

D. Stewart, Business Ethics, 1996 (企業倫理研究グループ訳『企業倫理』、白桃書房、2001年)

高 巖『「誠実さ:インテグリティ」を貫く経営』(日本経済新聞社、2006年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 経営倫理とは何か: 「イントロダクション」  
【倫理、規範、功利主義】
- ② 今、なぜコーポレート・ガバナンスなのか: その1「会社は誰のものか」  
【会社法改正、所有権、エージェンシー理論】
- ③ 今、なぜコーポレート・ガバナンスなのか: その2「ストックホルダーとステークホルダー」  
【アングロサクソン型、日本型、ライン型】
- ④ 組織・企業と社会: その1「経営道を築いた人々」  
【澁澤栄一、ヘンリー・フォード、松下幸之助、利潤動機と奉仕動機】
- ⑤ 組織・企業と社会: その2「組織の制度化: 社会的機関としての組織を考える」  
【組織の制度的理解、器官(機関)としての組織、ドラッカー】
- ⑥ 組織の中での具体的倫理的行動: その1「公的セクターにおける倫理遵守」  
【実践事例研究】
- ⑦ 組織の中での具体的倫理的行動: その2「私的セクターにおける倫理遵守: 内部統制」  
【実践事例研究】
- ⑧ コーポレート・シチズンシップとCSR: その1「企業の社会的責任とは何か」  
【スミス社裁判、権限と責任、ミルトン・フリードマン、レビット】
- ⑨ コーポレート・シチズンシップとCSR: その2「動く標的としてのCSR」  
【nblless oblige, enlightend self-interest, philanthropy, sustainability】
- ⑩ コーポレート・シチズンシップとCSR: その3「CSRの実践」  
【公認会計士に聞くCSRの実践事例研究】
- ⑪ リーダーの資質とインテグリティ: その1「リーダーの資質とは何か」  
【リーダーとマネジャー、マネジメント能力の3要素、インテグリティ】
- ⑫ リーダーの資質とインテグリティ: その2「事例研究から学ぶ」  
【エンロン、ワールド・コム、オリンパス、大王製紙】
- ⑬ 危機の時代における経営学(マネジメント)の責任: 総合科学としての経営学の課題  
【理論と技術と規範、3.11と経営学、経営学の本流と主流】
- ⑭ 職業倫理とプロフェッショナルリズム  
【プロフェッション、契約、信認】
- ⑮ 「経営倫理」に関する討議とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各テーマについてのディスカッションへの参加度・貢献度を6割、レポートの内容を4割として評価する。

# 企業の社会的責任と倫理 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 地域づくり総論【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○		

## 授業の概要 /Course Description

わが国は既に人口減社会に突入しており、経済活力の低下が深刻化しつつある。とりわけ、地方における経済活力の低下は極めて深刻な状況となっている。そのため、これまで以上に地域づくりや地域産業振興への関心が高まっている。しかしながら、従来の行政中心の手法には限界があり、行政の枠を超えたマネジメントのもとでの地域づくりや地域産業振興が求められている。そこで本講義では、行政の枠を超えた地域づくりのケーススタディや地域づくりのリーダーとのディスカッションにより、様々な担い手によって実行される地域づくりに必要な戦略やチームマネジメントについて学ぶものとする。なお、本講義の到達目標は、①地域づくりの現場における課題を具体的に抽出できること、②地域活性化につながる地域資源を具体的に発掘できること、③地域づくりを担う具体的なチームの体制を提案できること、である。

## 教科書 /Textbooks

その都度、指示します（基本はプリント配布）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

P.F.ドラッカー「非営利組織の経営」ダイヤモンド社  
P.F.ドラッカー「イノベーションと企業家精神」ダイヤモンド社  
山崎亨「コミュニティデザインの時代」中公新書  
広井良典「コミュニティを問いなおす」ちくま新書  
新雅史「商店街はなぜ減るのか」光文社新書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①、②地域を景観とデータから読み取る  
【地域の現状の確認：高齢化・都心空洞化・人口減少、消費低迷、下流化】  
【ディスカッション：10年後の地域のかたち、すでに起こった未来】
- ③、④地域資源とコミュニティデザイン  
【コミュニティ、人的ネットワーク、コラボレーション、地域資源、外部マネジメント】  
【ディスカッション：地域づくりのために誰とつながるべきか？】
- ⑤、⑥地域づくりのケーススタディ1  
【福岡県みのう地域：農村、農業、ツーリズム、自然、芸術】
- ⑦、⑧地域づくりのケーススタディ2  
【中心市街地の活性化：黒崎地区の実態（商店街、再開発、再都市化、コミュニティデザイン）】
- ⑨、⑩地域づくりと合意形成（八幡地区を事例に）  
【市街地再開発、再開発組合、都市計画、コミュニティ、合意形成】  
【ディスカッション：どのように地域で合意形成すれば良いのか？】
- ⑪、⑫地域づくりにおけるリーダーの資質とプロジェクト・マネジメント  
【リーダーシップ、フォローシップ、プロジェクト・マネジメント、コラボレーション】
- ⑬、⑭地域マーケティングとプラットフォームの可能性  
【地域マーケティング、プラットフォーム、ソーシャルメディア、ICT、クラウド】  
【ディスカッション：これからの地域づくりのプラットフォームとは？】
- ⑮地域づくりプロジェクトの提案  
【どんな地域課題に対して、どんな地域資源を生かして、誰とつながるのか？】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

地域づくりプロジェクトの提案レポート（70%）、ディスカッションに対する貢献度（30%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マーケティングや経営戦略といったベーシック科目をしっかり習得していることを期待する。また、できればパブリックマネジメントやソーシャル・ビジネスの履修していることが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

本講義は2コマ連続の隔週開講とする

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネススクールならではの知見を応用しつつ、地域づくりを多角的に捉えて、具体的な案件をとりあげて議論を深めたいと思います。

# 地域づくり総論【夜】

## キーワード /Keywords

コラボレーション、すでに起こった未来、コミュニティデザイン、NPO、ソーシャル・ビジネス、市街地活性化、地域マーケティング、少子高齢化

## マーケティング戦略【夜】

担当者名 佐藤 章 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

企業の価値を高め、人や社会との絆を創るのが「ブランド」。その「ブランド」がいかに利益を上げられるようになるのか？経営戦略に直結する商品戦略・マーケティング戦略を実践を通じて講義を行う。激変する市場・環境で悪循環に陥りがちな経営の要因を見つけ、具体的な「ブランドマネジメント」や商品開発の要件を導く。「意思決定とは上位概念に従う。」とも言われ、明快なビジョンとそれに到達する現実的なシナリオを良く理解したうえで、実際の商品開発・マーケティング戦略を行うことがとても肝要です。その上で商品開発・ブランドマネジメントのスキルを学んで頂きます。ケーススタディを通じて解りやすく、面白く解説していきます。

## 教科書 /Textbooks

都度指示

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

P.E.ドラッカ - ドラッカ - の講義  
沼上幹 経営戦略上の思考法 日本経済新聞出版社  
平井孝志・小川進 3分でわかるクリエイティブ・シンキング 日本実業出版社  
佐藤 章 ヒットを生み出す最強チーム術 平凡社新書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 経営戦略とマーケティング戦略の関係、ビジョンとは？戦略とは？マーケティング戦略とは？
- ② マーケティングの基礎知識 (市場とは？目標設定、基本戦略、4P)
- ③ 同 (ブランドマネジメントと商品開発)
- ④ 同 (市場リサーチの方法、仮説の立て方)
- ⑤ 同 (CSRの重要性)
- ⑥ ケーススタディによる事例解説 (新商品開発)
  - ・ 新商品開発の実践、ディスカッション
  - ・ ケーススタディによる事例解説 (定番革新のブランドマネジメント)
  - ・ ブランドマネジメントの実践、ディスカッション
  - ・ ケーススタディによる事例解説 (社会貢献型のブランド)
- ⑦ CSRを視点とした活動実践、ディスカッション
- ⑧ 経営戦略の思考法
- ⑨ チーム作りとコーチング
- ⑩ 広告戦略 (クリエイティブ開発)
- ⑪ メディア戦略 (メディアの特徴とメディアミックス)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 50%、課題レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません

## 履修上の注意 /Remarks

隔週2コマを基本とします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当者の開発事例、マネジメント事例を中心に紹介します。

## キーワード /Keywords

ヒットを生み出すチーム (ものづくりの現場)、定番革新、顧客の頭の中を探る

# 会社法 【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○		

## 授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。この講義では、会社のうち株式会社を中心に、会社のガバナンスやファイナンス・M&A等に関する法制度を説明します。

なお、この講義の到達目標は、会社法の基本的なルールや考え方を理解し、会社法上の問題を発見・分析する能力を身につけることです。

## 教科書 /Textbooks

初回の授業で指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
- ②会社の種類
- ③株式会社の機関(1)【権限分配の構造】
- ④株式会社の機関(2)【株主総会】
- ⑤株式会社の機関(3)【取締役会】【代表取締役】
- ⑥株式会社の機関(4)【取締役の責任】
- ⑦株式の発行
- ⑧株式の流通
- ⑨株式会社の組織再編
- ⑩敵対的買収
- ⑪非公開化取引
- ⑫会社法の改正(1)【ガバナンス関係】
- ⑬会社法の改正(2)【ファイナンス関係】
- ⑭会社法の改正(3)【親子会社関係】
- ⑮まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表等のクラスへの貢献度...50%、レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 知識マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義は知識の共有・活用を組織的に展開するナレッジマネジメントと共に、知識をイノベーションの源泉とする知識創造について検討を加え、知識社会の経営、管理について習得することを目指す。有益な知識を提供し合い、相互に活用することで知識生産性の向上を志向するマネジメントを検討しながら、他方ではイノベーションに必要な新しい知識の創造についても取り上げ、新規事業やビジネスモデルの創出、製品・技術の開発などに不可欠な「場」の議論、ワークスタイルの分析・設計などを通して知識経営の実践力を高め、知識社会のリーダー像を明らかにする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

越出均『ナレッジ・クリエイター』、創成社  
 國領・野中・片岡『ネットワーク社会の知識経営』、NTT出版  
 野中・竹内『知識創造企業』、東洋経済新報社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 知識社会の到来  
【収穫逓増のプラットフォーム】
- ② 知識ネットワーク  
【企業の実践コミュニティ】
- ③ 知識経営の基礎  
【知識マネジメントの要諦】
- ④ 知識創造経営  
【SECIモデル】
- ⑤ 知識経営の実際  
【ゲストに学ぶ知識経営】
- ⑥ 知識イノベーション  
【異なる知のマネジメント】
- ⑦ 知のコラボレーション  
【顧客とのリレーションシップと価値創出】
- ⑧ 失敗の「知」  
【体験的学習の生かし方】
- ⑨ 「知」の伝承  
【場の共有化と技能習得】
- ⑩ 「知」のデジタル化  
【技術思考による業務改革】
- ⑪ 営業のナレッジ共有とスキルアップ  
【可視化のマネジメント】
- ⑫ 知識社会のリーダーシップ  
【CKOの役割】
- ⑬ 専門的知識  
【デザイナーと開発者のマネジメント】
- ⑭ 地域の「知」をマネジメントする  
【商店街・地場産業の集積知、知的触発】
- ⑮ 自社における知識ビジネスと知識経営についての考察、発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションに対する貢献度(2割)と課題に対するレポート評価(8割)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

# 知識マネジメント 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 管理会計【夜】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○		

## 授業の概要 /Course Description

管理会計とは、会計学のうちで企業内部者、たとえば経営者や事業部長などの合理的な意思決定に役立つ会計情報について研究する分野である。本講義では、管理会計の基礎理論をできるだけ計算例を用いて解説するように努める。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①専門分野の知識・理解およびスキル: 管理会計の知識を理解したうえで、その分析方法を習得する。
- ②課題発見・分析・解決力: 管理会計の視点から、企業経営の問題点を分析できるようになる。
- ③生涯学習力: 現実の企業経営における管理会計の有用性を知る。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

参考書は授業の初回に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 第2回 ラーメン屋事例① 費用と利益の考え方【損益分岐点】
- 第3回 ラーメン屋事例② 機械・設備にかかるお金【減価償却費】
- 第4回 ラーメン屋事例③ 在庫と借入金の返済【利息】
- 第5回 ラーメン屋事例④ 損益計算表とキャッシュフロー計算書【P/L & CF計算書】
- 第6回 ラーメン屋事例⑤ 貸借対照表【B/S】
- 第7回 ラーメン屋事例⑥ 財務諸表の作成【F/S】
- 第8回 企業の目的【予算差異分析】
- 第9回 企業戦略、組織設計と管理会計の機能【エイジェンシー問題】
- 第10回 部門別業績評価【責任会計】
- 第11回 部門別業績評価【責任センター】
- 第12回 予算管理【総合予算】
- 第13回 予算管理【組織設計】
- 第14回 予算管理【差異分析】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...10回×3点=30点、期末試験...70点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ファイナンス」「財務諸表分析」を履修済みであることが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## パブリック・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

国、地方ともに財政難に直面するわが国では、従来の行政を中心とする公共経営の限界が明らかになりつつあり、90年代後半から新たな行政手法としてNPM(ニュー・パブリック・マネジメント)の導入が推進されている。顧客主義に基づき行政の経済性や効率性を重視するNPMは一定の成果をあげているが、NPOなどの市民セクターによる新しい公共の担い手など多元的な主体による公共経営やガバナンスのあり方が問われている。

そのため、NPMの理論や特性、行財政改革手法、公共の担い手としての責務、職業倫理等を学び、外郭団体や公益団体、企業まで含めた公共経営やNPMを超えた福祉や教育の分野などでの市民セクターとの地域協働による新しい公共空間の創造やソーシャルキャピタル等について、今後の展望を探る。

講義の到達目標は、①公共セクター、民間セクター、市民セクターの特性と仕組みが理解できること、②公共セクターの多様性と課題を把握できること、③現実の公共セクターの具体的分析ができること、である。

## 教科書 /Textbooks

授業の際に、適宜必要な資料を配布します

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『パブリック・マネジメント』(2002年) 大住荘四郎 日本評論社  
『分権型社会における自治体経営の刷新戦略』(2005年) 総務省分権型社会に対応した地方行政組織の刷新に関する研究会  
『非営利組織の経営』(1991年) ドラッカー ダイヤモンド社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① パブリックマネジメント総論I  
【パブリックセクターの特性、歴史的経緯、社会的変化、ソーシャルキャピタルの考え方】
- ② パブリックマネジメント総論II  
【公共セクターの役割、公共セクターの職業倫理】
- ③ パブリックマネジメント総論III  
【NPMの理論背景と基本的考え方】
- ④ 課題議論  
【学生による意見交換、論議】
- ⑤ 公益事業(企業等)  
【特性、電力、通信、高速道路等】
- ⑥ 公益法人・NPO制度  
【NPO, 自治組織など市民セクター】
- ⑦ パブリック組織の組織・人材マネジメント  
【わが国の人事制度の特徴】
- ⑧ パブリック組織の財政の仕組みI  
【国・地方の予算・決算制度】
- ⑨ パブリック組織の財政の仕組みII  
【国・地方の財政分析】
- ⑩ パブリックサービスの改革手法I  
【PPP】【民間委託】
- ⑪ パブリックサービスの改革手法II  
【独立行政法人】【指定管理者】
- ⑫ パブリックサービスの改革手法III  
【第三セクター・外郭団体】
- ⑬ パブリックサービスの改革手法  
【PFI】【市場化テスト】
- ⑭ 課題議論・ゲストスピーカー  
【特定テーマによる議論】
- ⑮ まとめ  
【多様な主体による新しい公共、ソーシャルキャピタルの構築】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、課題に対するプレゼンテーション(70%)、授業の状況(質疑、意見、発表等30%)をもとに総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# パブリック・マネジメント 【夜】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生の皆さんの活発な議論や質疑を期待しています。

## キーワード /Keywords

## 財務会計【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ベーシック科目であるアカウンティングの知識を基に、本講座では財務会計領域の知識を幅広く積み上げ、意思決定、証券市場、さらには会計プロフェッションによる情報保証の問題を、末広がり考察対象に加えてゆく。本講座は慣習的な「会計の講義」を展開することを意図するものではない。むしろ、刻々と変化するビジネス環境の下で、意思決定者は会計情報をいかに分析し、解釈し、自らの行動を選択するものか、そうした事柄を自発的に考えさせる機会を提供する。その思考プロセスにあつてはむしろ、国際会計基準 (IFRS) の考え方を学び、その発想方法を援用することであろう。本講義の到達目標は、受講終了後、受講者が決算報告書 (アニュアル・レポート) を分析、解釈、評価し、意思決定に必要な情報を自在に取り出せるようになることである。

## 教科書 /Textbooks

『Accounting～IFRS 水準の企業開示を理解するための諸論点～』  
(初回授業時に、無償にて最新版を配布する)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

(一例として) 田中建二著『財務会計入門』中央経済社 (但し購入は任意)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ベーシックの「アカウンティング」講座の応用編として、主として以下のコンテンツに関わる理解を深め、各々モジュールにして組み立て、財務会計全般の知識の体系化を図る (プレゼンテーションの時間などを要するため、講義順は変わることがある)。

①オリエンテーション：本講座でカバーされる領域と目的、課題等について。

【オリエンテーション】

②財務諸表書式の連関関係について：未実現損益の処理と包括利益の表示など。

【財務諸表のフォーマット】

③キャッシュフロー計算書の作成とその分析方法について。

【キャッシュフロー】

④利益操作の意図と報告利益品質について。

【アーニングズ・マネジメント】

⑤SFAS、IFRS 等のGAAP のディテールについて。

【GAAP】 【IFRS】 【SFAS】

⑥財務諸表分析とその応用：企業価値評価への展望。

【財務諸表分析】

⑦ (英文) アニュアル・レポートのコンテキストの理解。

【アニュアル・レポート】

⑧SEC 行政処分事例の実際について。

【SEC】

⑨財務諸表の信頼性保証とリスクについて。

【監査】

⑩バランスシートと会計的論点について (減損会計、時価会計等)。

【B/S イシュー】

⑪P/L と会計的論点について。

【P/L イシュー】

⑫証券市場規制と企業のディスクロージャー行動について。

【ディスクロージャー】

⑬会計情報と投資意思決定について。

【投資意思決定】

⑭財務会計のWrap-up.

【財務会計】

⑮財務会計の知識のアプリケーションと応用。

【アプリケーション】...以上に代表されるテーマについての理解を、受講者の知識経験のレベルにあわせて深めて行く。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの質(15%程度)、プレゼンテーションの積極性やディスカッションに際しての貢献度(20%位)、期末試験の成績(65%位)、等を適宜ウェイト付けし、総合的に判断します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 財務会計【夜】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度伝えます。各回配布済プリント等も、毎回、授業に際し持参してください。簡単な電卓も持参されると良いでしょう。

## 履修上の注意 /Remarks

財務諸表分析の講座ではありますが、結果的には財務会計分野を、幅広く俯瞰する科目になります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は、履修者が自らの会計的視点を確立するための、ファシリテーターとしての役割を果たします。しかるに、履修者自身が選んだテーマで、プレゼンテーションをしていただく機会を設けます。

## キーワード /Keywords

上記の中でも特に、GAAP、IFRS、B/S、P/L、財務諸表分析、意思決定。

## 地域産業【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

北部九州エリアを中心に、地域を支える産業の特性を分析しながら、その育成策について実証的かつ実践的に学ぶ。とくに産業立地や産業集積という観点から、地域において主導的な役割を果たしていく産業の成長促進策について体系的に学ぶ。

授業の到達目標は、①九州地域の企業が市場開拓や新規参入などを図る際の行動を体系的に習得し、②それに応じて行政が進める戦略産業育成策を体系的な知識として得ることである。またこれらを通じて九州地域の成長戦略を描く力が身に付くことである。

## 教科書 /Textbooks

配布するプリントを中心とする。その他必要なものについては、講義中にその都度指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中にその都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①日本および九州地域の産業構造と変化の動向  
【産業構造】【戦略産業】
- ②北部九州地域の産業構造  
【北部九州】【福北大都市圏】
- ③主要産業の動向と地域に与える影響I  
【素材産業】
- ④主要産業の動向と地域に与える影響II  
【加工組立産業】
- ⑤主要産業の動向と地域に与える影響III  
【商業・サービス業】
- ⑥地域産業における生産・流通システムの高度化I  
【大企業】【事業再構築】【海外展開】
- ⑦地域産業における生産・流通システムの高度化II  
【中小企業】【事業再構築】【海外展開】
- ⑧地域産業の新規事業開拓I  
【既存取引活用型】
- ⑨地域産業の新規事業開拓II  
【異分野展開型】
- ⑩地域産業の新規事業開拓III  
【事業転換型】
- ⑪地域産業活性化への政策的対応I  
【事業高度化促進】
- ⑫地域産業活性化への政策的対応II  
【立地促進】【企業誘致】
- ⑬地域産業活性化への政策的対応III  
【雇用促進】【人材活用】
- ⑭地域産業活性化への政策的対応IV  
【集積促進】【イノベーション】
- ⑮まとめ  
【地域産業育成のあるべき姿】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート・・・90%、ディスカッションなど日常の授業への取組・・・10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

平日頃より経済雑誌、新聞等で地域産業の動向をチェックしておいてください。

## 履修上の注意 /Remarks

パブリック系の科目を履修しておくとう理解が深まります。

# 地域産業【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できるだけ最新のデータを提供するよう心がけています。

## キーワード /Keywords

地域産業、産業構造、立地モデル、新規事業、新規事業育成策

## 国際ビジネス・スキル【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

国際ビジネス・スキル offers students the opportunity to develop the skills necessary to make successful business presentations in an international environment. While the emphasis will be on technique a strong focus on enhancing English-language skills will be maintained throughout. It is hoped that this course will enable students to make professional, persuasive and entertaining business presentations which feature the usage of accurate and appropriate English.

## 教科書 /Textbooks

Mary M. Munter and Lyn Russell, Guide to Presentations (Prentice-Hall, 2011)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Secondary Reading will be discussed in the Introduction.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Introduction

Presentation Strategy

2回 Analyze the Audience - Expectations

3回 Analyze the Audience - Persuasion

4回 Identify Your Intent - Purpose

5回 Identify Your Intent - Focus

6回 Make the Most of the Messages - Impact

7回 Make the Most of the Messages - Medium

Presentation Implementation

8回 Structure the Content - Logic

9回 Structure the Content - Q & A Preparation

10回 Design Effective Powerpoint Visuals - Titles and Template

11回 Design Effective Powerpoint Visuals - Thinking Visually

12回 Refine Your Nonverbal Delivery - Analysis

13回 Refine Your Nonverbal Delivery - Practice

14回 Student Presentations 1

15回 Student Presentations 2 + Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of homework assignments - 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Preparation tasks will be set by the instructor whenever appropriate.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## ロジスティクス【夜】

担当者名 藤村 幸弘 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

## プロジェクトアプローチの講義

実際の企業の課題を用い、ICT(情報技術ツール)を活用しフォーマルな学び(座学)とインフォーマルな学び(実体験)を組み合わせたプログラムです。

バリューチェーン、サプライチェーンの基礎知識を基に国際ビジネスプランを作成する。講義に於いては、グローバルビジネスカルチャー、パートナーシップ、チームビルディング、コラボレーションワークを体験しながら、“地域からグローバルビジネスモデル構築を行うことを目的とする。”

## 教科書 /Textbooks

プロジェクトにて内容を表示、支給したiPadを使用しテキストを閲覧

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

基本的なサプライ・チェーン・マネジメントの著書

競争優位の戦略 M・E・ポーター著 ダイヤモンド社

考える技術・書く技術 バーバラ・ミント著 ダイヤモンド社

ビジネスモデルジェネレーション アレックス・オスターワルダー&イヴ・ビニョール

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション【国際ビジネスとロジスティクス】  
バリューチェーン・サプライチェーン・グローバルサプライチェーンの関係
- ② チーム結成【チームビルディング】  
プロジェクト課題決定  
ファシリテーターの役割、リーダーの役割を“学ぶ”
- ③④ サプライチェーンとマーケティングの関連性を“学ぶ”  
③【バリューチェーンとプロセスの検証】④【マーケットリサーチ】  
SCMの事例紹介 “ポジショニング”の重要性  
“パートナーリング”“チームマネジメント”の重要性
- ⑤⑥ 地域から見た国際ビジネスを“学ぶ”  
⑤【リアルタイム情報の重要性】⑥【コーポレートファイナンス】  
“ソーシャルネットワーク”を活用した世界のリアルタイム情報と分析法  
第一回目ビジネスプランの検証
- ⑦⑧ 地域から見た国際ビジネスを“学ぶ”  
⑦【ビジネスモデルの構築手法】⑧【グローバルビジネスに必要な知識】  
グローバル情報を基に地域からグローバルビジネスを考える。
- ⑨⑩ 地域から見た国際ビジネスを“学ぶ”  
⑨⑩【情報共有とディスカッションから得る知識】  
チームメンバーとのディスカッションから得る気付きと学びの重要性
- ⑪⑫ ビジネスプランの検証  
⑪【チームディスカッション】⑫【目標設定とプランの重要性】
- ⑬⑭⑮ プレゼンテーションと統括  
⑬【プロジェクトの進捗確認】  
⑭【プレゼン手法】  
⑮【ビジネスプランのプレゼンテーション】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションへの参加率、実態調査への貢献度、プレゼンテーションへの貢献度、チームへの貢献度を元に総合的に評価する。 ディスカッション(25%)、調査資料(25%)、プレゼンテーション(25%)、チームワーク(25%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書の基本的内容を理解しておくことが好ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

チームで短期間にビジネスプランを作成するため、講義を欠席すると他のチームメンバーに負担が掛かります。期間中タイムマネジメントを確りと行って欲しい。

# ロジスティックス【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- \* 大局的に物事をみるためにグローバルサプライチェーンを学んで欲しい。
- \* グローバルビジネスに於いての数値の重要性を理解して欲しい。
- \* グローバル社会の中での自身の立ち位置を発見して欲しい。

## キーワード /Keywords

グローバルサプライチェーン、マーケティング、ファイナンス、プロセス、チームビルディング、コミュニケーション、パートナーリング

# 問題解決スキル【夜】

担当者名 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

ビジネスに必要なスキルは、プレゼンテーション、ライティング、コミュニケーションなど多岐にわたるが、本講義では、問題解決に必要とされる基本的な思考方法、分析ツールを紹介し、ケーススタディを通して解決スキルを習得してもらうことに主眼を置いている。

前半は、システム分析の視点から授業を構成する。後半は、適宜、演習問題を課すことによって理解力を高め、スキルの向上をめざす。

具体的には、KJ法、オペレーションズ・リサーチ、ビジネスモデル、TOCなど、簡単なものからパソコンを利用したいいくつかの分析手法を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

プリントまたは冊子を配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

平山克己(2008年)『あほ賢システムのおはなし』SCC  
刀根 芳(2001年)『オペレーションズ・リサーチ読本』日本評論社  
柏木吉基(2006年)『Excelで学ぶ意思決定論』Ohmsha  
エリヤフゴールドラット著、三本木亮訳(2001年)『ザ・ゴール』ダイヤモンド社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義方式に加え、グループワーク、パソコン演習、ケース・スタディを組み入れることで知識の理解を深め、かつ思考能力を涵養する。各講義内容は以下の通り

- 1回 問題解決手法とは 【ブレインストーミング】【KJ法】
- 2回 問題解決手法演習 【KJ法】
- 3回 表計算ソフトによる図解化法 【グラフ化】【統計的分析】
- 4回 表計算ソフトによる図解化法演習 【グラフ化】【統計的分析】
- 5回 オペレーションズ・リサーチとは 【PERT】【アクティビティ】【プロジェクト管理】
- 6回 オペレーションズ・リサーチ演習 【最適化】【線形計画法】
- 7回 ビジネスモデルとは 【IDEF】【アクティビティ】
- 8回 ビジネスモデル演習 【Activity Based Costing】【管理会計】
- 9回 制約条件の理論 (Theory Of Constraint)とは 【制約条件】【ボトルネック】【ドラムバッファロープ】
- 10回 制約条件の理論 (Theory Of Constraint)演習
- 11～15回 演習 Reading Assignment発表 【ケース・スタディ】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況・・・30% 課題・・・40% 討議の貢献度・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持参してもらう場合があります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# チーム・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 山口 裕幸 / Hiroyuki Yamaguchi / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 集中 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class 2年 / 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、チームを構成するメンバーが、活動を通して相互作用する過程でチームに備わってくる（創発されてくる）特性としてチームワークや、チーム・コンピテンシー、チーム・レジリエンスをとらえ、それらのチームレベルの特性を、より高品質なものへと育み、強化するための働きかけを考える視点から、効果的なチームマネジメントについて論じていく。

グループ・ダイナミクス、組織行動論、戦略的人的資源管理論、複雑系科学、進化論を学術的論考の基盤としつつ、組織現場で発生している現実問題を題材として取り上げながら、いかなるマネジメントが効果的であるのかを、マイクロレベル（＝個人の心理プロセスや行動特性）と、それらが相互作用することでできあがり、また変容していくマクロレベル（チーム・パフォーマンス、チーム規範、チームワーク等）の相互作用ダイナミズムに注目しながら、講義を進めていく。具体的に取り上げるトピックは、次のような構成を考えている。

1. チーム・マネジメントのターゲットは何か
2. チームの特性と類型を理解する
3. チーム発達論
4. チームワークとは何か
5. メンバー個々のチームワーク能力
6. チーム・コンピテンシーを考える
7. チーム・レジリエンスの重要性
8. チーム・デザイン論
9. チーム・ビルディング論
10. チーム・マネジメントとリーダーシップ

## 教科書 /Textbooks

「チームワークの心理学 - よりよい集団づくりをめざして - 」山口裕幸(著)サイエンス社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学』山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久(著) 有斐閣アルマ  
『<先取り>指向の組織心理学 - プロアクティブ行動と組織』古川久敬・山口裕幸(編著)有斐閣

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、集中講義形式での開講を予定しており、5コマ×3日で構成を考えている。また、講義を基盤とするが、課題を準備して、自らの意見を考えたり、受講生どうして議論したりする、演習形式も適宜、取り入れる。

<1日目：5コマ(講義を基盤に進めます)>

- ① チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史(1)【機械組織観、ホーソン研究、人間性心理学】
- ② チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史(2)【自己組織性、組織改革、チームワーク】
- ③ チーム・マネジメントのターゲットを同定する【組織規範、組織コミュニケーション】
- ④ チームとは何か、その特性と類型【チーム、タスクフォース、クルー】
- ⑤ チーム発達論【組織の硬直化現象、ライフサイクル理論、】

<2日目：5コマ(講義と演習)>

- ⑥ メンバーの相互作用ダイナミクスとチーム・コミュニケーションの特性理解(講義)【場の理論、ネットワーク】
- ⑦ メンバーの相互作用ダイナミクスとチーム・コミュニケーションの特性理解(課題を用いた演習)
- ⑧ チームワークとは何か(講義)【モニタリング、相互調整、相互支援、相互指摘】
- ⑨ チーム・コンピテンシーとチーム・レジリエンスを育むには(課題を用いた演習)
- ⑩ チーム・コンピテンシーとチーム・レジリエンスを育むには(講義と議論)【コンピテンシー、レジリエンス、失敗学】

<3日目：5コマ(講義と演習)>

- ⑪ チーム・パフォーマンスを阻害するチーム・ダイナミクスの理解(講義)【プロセス・ロス、集団ヒューリスティック】
- ⑫ 優れたチーム・コミュニケーションを育むための条件【共有メンタルモデル、暗黙の強調】
- ⑬ チーム・デザインとチーム・ビルディング【介入型チーム育成、自律管理型チーム】
- ⑭ 優れたチーム・マネジメントを実現するリーダーシップを考える(課題を用いた演習)
- ⑮ 優れたチーム・マネジメントを実現するリーダーシップを考える(講義)【目標管理、影響力、ミッション、ビジョン】

☆全体の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の途中で課される課題への解答の精度(25%)、課題や議論への参加態度(25%)、レポートの品質(50%)を総合して成績を評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# チーム・マネジメント【夜】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 環境ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
										○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、第1に経済システムという視点から環境問題や環境行動を考察する(マクロ的分析)。第2に、環境ビジネス分野ごとの動向を把握し、現状分析と課題抽出を行い、その動向を探る(セミマクロ的分析)。第3に、企業経営において必要とされる環境行動について検討し、分析フレームワークに基づく課題解決のためのプランを検討する(ミクロ的分析)。その上で、環境問題の解決(環境負荷の低減)に結びつくようなビジネスモデルを立ち上げることを想定したグループ学習を行う。

## 教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【環境ビジネスとは何か】
- ② 企業活動と環境問題  
【環境問題と企業活動の関係を考える】
- ③ 社会システムと環境問題  
【持続可能な発展：市場・行政・社会のシステム】
- ④ リサイクルビジネスの基礎  
【リサイクルビジネスの分野と成長可能性】
- ⑤ リサイクルビジネスの課題  
【リサイクルビジネスの課題とその解決方法】
- ⑥ 環境ビジネスにおける顧客創造  
【顧客とは誰か？顧客創造とは何か？】
- ⑦ 環境産業クラスター1  
【環境産業クラスターの現状と課題】
- ⑧ 環境産業クラスター2  
【環境ビジネスにおける戦略とファイブフォース】
- ⑨ 環境ビジネスの市場分析と参入可能性1  
【市場分析のフレームワーク】
- ⑩ 環境ビジネスの市場分析と参入可能性2  
【プレゼンテーションとディスカッション】
- ⑪ 現場から考える環境ビジネス1  
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑫ 現場から考える環境ビジネス2  
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑬ 環境ビジネスにおけるイノベーション1  
【環境分野における技術革新と市場への適用】
- ⑭ 環境ビジネスにおけるイノベーション2  
【環境ビジネスを通じたソーシャルイノベーション】
- ⑮ まとめとディスカッション  
【課題設定にもとづきプレゼンテーションおよびディスカッション】

※なお、上記に加え、希望者による環境企業見学を行う(予定)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度(発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など):50%、課題の内容(レポートなど):50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講に際しては、一方で環境問題や環境活動に対する固定観念を一度取り払うこと、もう一方で環境問題に関連する社会経済の動向に注意を払うことを求める。

# 環境ビジネス【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 国際経営【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

経営のグローバル化に関する広い視野と深い洞察力、国際化戦略に関する専門知識の習得を目的とする。講義内容は大きく3部構成とする。第1部では国際経営の基礎概念、理論を学んだ上、関係統計を通じて経営国際化進展の全体像を掴む。第2部では、日本企業の経営国際化の特徴、諸課題を分析する。第3部ではケーススタディを行い、討論を通じて全体内容に対する理解を深めることにしたい。

受講生の理解度を確認しながら、難易度を調節できるように工夫していく。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布予定

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

湯沢威他著 『国際競争力の経営史』有斐格  
吉原英樹編著 『国際経営論への招待』ミネルブア書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：講義の狙い、概要の説明
- 第2回 「経営国際化」、「多国籍企業」 【企業の国籍】
- 第3回 多国籍企業の誕生、発展段階 【株式会社誕生起源説】、【6段階説】、【4類型化】
- 第4回 企業の多国籍化の誘因 【PLC説】、【資本余剰説】、【貿易摩擦回避型】、【原価削減型】
- 第5回 多国籍企業の所有戦略 【持ち分型】、【完全所有】、【共同所有】、【非持ち分型】、【技術供与契約方式】
- 第6回 基本統計 【国際収支ベース】、【直接投資】、【対外・対内投資】、【グローバル企業ランキング】
- 第7回 多国籍企業の租税戦略と国際事業本部の立地 【RHQ】、【外資政策】、【タックスヘイブン】、【移転価格】
- 第8回 日本企業の経営国際化の特徴 【日本型多国籍企業】
- 第9回 経営現地化の諸課題 【国内志向】、【現地志向】
- 第10回 日系企業に関する現地調査報告
- 第11回 ケーススタディI(日系製造業・多国籍企業に関するゲスト講義)
- 第12回 ケースIに対する総合討議
- 第13回 ケーススタディII(東アジア財閥系多国籍企業：現地調査を踏まえて)
- 第14回 ケースIIに対する総合討議
- 第15回 総合質疑

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート 50%  
討論への貢献度 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

紹介資料、配布資料を熟読すること  
講義中に積極的に質疑・発言する心掛けを！

## 国際経営【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

私語を謹んで下さい  
遅刻・早退を謹んで下さい

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ベンチャー・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義は起業家社会を標榜したアントレプレナーの行動特性などを踏まえながら、事業創造とスタートアップ、成長・発展から成熟までの各段階に対応した戦略、マネジメントについて検討する。コーポレート・ベンチャリング、スピンアウト、さらにはソーシャル・アントレプレナーなどを含む起業形態を想定した上で、情報サ-ビス業者の起業モデルなどを先例としたケース・スタディを行い、ビジネス・チャンスの探索、ビジネスプランの策定、企業設立、そして経営手法に学ぶ実践的学習方法を取り入れる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

越出均『起業モデル』、創成社  
 ティモンズ『ベンチャー創造の理論と戦略』、ダイヤモンド社  
 ヴェスパー『ニューベンチャー戦略』、同友館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 起業家精神と行動特性  
【アントレプレナーのマインドと学習】
- ② シリコンバレー・モデル  
【ビジネス・インキュベーション】
- ③ ベンチャー企業のスタートアップ  
【革新的スモールビジネスの存続条件】
- ④ ベンチャー企業の創造プロセス  
【ビジネスチャンスの探索と戦略思考】
- ⑤ ベンチャー企業の成長と発展  
【変革と成長の痛み】
- ⑥ ベンチャー企業のマネジメント  
【経営のプロフェッショナルをめざして】
- ⑦ ベンチャー企業・革新的中小企業の実例  
【ゲストによる事例報告】
- ⑧ コーポレートベンチャリング  
【社内起業家の取り組みと第二創業】
- ⑨ 研究開発の事業化  
【事業提携とジョイント・ベンチャー】
- ⑩ ソーシャル・ベンチャー  
【事業志向型の社会起業家】
- ⑪ ネットベンチャー  
【ビジネスモデルの創造】
- ⑫ 新規事業のプランニング  
【事業計画書の作成】
- ⑬～⑭ ビジネスプランの作成とプレゼンテーション

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションへの貢献度(2割)と課題に関するレポートで評価(8割)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# ベンチャー・ビジネス【夜】

キーワード /Keywords

# 戦略的提携と事業創造【夜】

担当者名 林 秀美 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

「戦略的提携と事業創造」は、知識社会化が進展していく21世紀型の事業戦略の核である他組織との戦略的提携（アライアンス）による新たな事業創造のメカニズムを習得することを目的としている。この科目は、実務経験をもとにしたケーススタディを中心に受講生とのディベートを通して理解を深めていくことにする。  
知識社会化を前提とした21世紀の事業創造は、各組織(企業)のコアコンピタンスの連携によるコラボレーション(戦略的提携)がいかに中心的役割を果たすことになるのかを明らかにする。この戦略的提携による事業創造を具体的な事業として実現していくには、どのようなプロセスをたどるのが、そのプロセスについてケーススタディを中心に理解していく。この講義は、実践力の養成に主眼を置くことにする。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

その都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 戦略的提携と事業創造【地図屋のIT革命】【デジタル化】
- ② 戦略的提携と事業創造【地図屋のIT革命】【ネットビジネス】
- ③ 技術革新と事業創造発想のプロセス【知識社会】【技術革新と新規事業創造】
- ④ アライアンスとアウトソーシング【共同開発】【コンソーシアム】【資本提携】
- ⑤ 事業計画書の策定【事業計画】収支計画】
- ⑥ 戦略立案のプロセス【ケーススタディ・ディスカッション】【戦略立案】
- ⑦ トップの意思決定プロセスと事業創造【3つの問題】【社内意識統一】
- ⑧ 戦略的提携のプロセスと課題【マーケットの創出と早期参入】
- ⑨ 企業内イノベーション～組織と人事【プロジェクトリーダー】【組織の変遷】
- ⑩ 意識改革、発想のイノベーション【既成を捨てる】【気づき】
- ⑪ 戦略的提携と事業実現(ケーススタディ・ゲスト講義)
- ⑫ 戦略的提携と事業実現(ゲスト講義に関するディスカッション)
- ⑬ 戦略的提携と事業創造を実現するための課題【ケーススタディ・ディスカッション】
- ⑭ 戦略的提携と事業創造を考える(課題発表)【○○との提携を考える】
- ⑮ 戦略的提携と事業創造を考える(まとめ、課題発表とディスカッション)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験はおこなわない。ケース・ディスカッションに対する貢献度(40%)や毎回のテーマごとのレポート、課題提出(60%)などを総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ベーシック科目の経営戦略やマーケティングなどを受講していることが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

隔週2コマ連続の授業とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィナンシャル・インベストメント【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

さまざまな金融商品のリスク・リターン特性、証券市場の価格決定メカニズムを学んだうえで、ポートフォリオの運営やデリバティブの活用方法などについて実例を交えながら学ぶ。具体的には、金融・証券市場、投資の基本概念、債券投資、株式投資、デリバティブ、現代ポートフォリオ理論、資本市場理論などについて、実例を通して学び、自ら分析できるようにする。そして、分析手法をケース・スタディに活用して、実践的な分析力を養い、適切な経営判断ができるようにする。

到達目標は以下のとおり。①投資の基本概念を理解し、投資分析ができるようになる、②ポートフォリオ理論を理解し、証券データを使って分析できるようにする、③デリバティブの仕組みと利用法を理解する。

## 教科書 /Textbooks

ボデイ & マートン & クリートン (著) 大前恵一朗 (訳) (2011年) 『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ブリーリー & マイヤーズ & アレン (著) 藤井眞理子・国枝繁樹 (監訳) (2007年) 『コーポレート・ファイナンス (第8版) 上・下』日経BP社、

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション 【ファイナンス】
- ② 金融市場と金融資産  
【市場】【債券】【株式】【派生商品】【機関投資家】
- ③ 投資の基本概念  
【現在価値分析】【投資収益率】【効用】
- ④ 債券投資分析 ( 1 ) 金利と債券価格  
【最終利回り】【デュレーション】【イールド・カーブ】
- ⑤ 債券投資分析 ( 2 ) 金利の期間構造  
【イールド・カーブの特性】【純粋期待仮説】
- ⑥ 株式投資分析 ( 1 ) 配当割引モデル  
【ゼロ成長モデル】【定率成長モデル】
- ⑦ 株式投資分析 ( 2 ) 市場の効率性と株式投資  
【効率的市場仮説】【アノマリー】
- ⑧ デリバティブ ( 1 ) 先物の理論価格とヘッジ  
【先物取引】【先物取引】【ベースス・リスク】【ヘッジ比率】
- ⑨ デリバティブ ( 2 ) オプションの仕組みと利用法  
【コール・オプション】【プット・オプション】【本源的価値】
- ⑩ ポートフォリオ理論 ( 1 )  
【期待収益】【投資リスク】【分散投資のリスク軽減効果】
- ⑪ ポートフォリオ理論 ( 2 ) 最適ポートフォリオ  
【無リスク証券】【分離定理】
- ⑫ ポートフォリオ理論 ( 3 ) ケース・スタディ  
【アセット・アロケーション】
- ⑬ 資本市場理論 ( 1 ) CAPM ( 資本資産評価モデル )  
【資本市場線】【ベータ】
- ⑭ 資本市場理論 ( 2 ) 裁定価格理論  
【ファクター・モデル】【裁定ポートフォリオ】
- ⑮ 資本市場理論 ( 3 ) ケース・スタディ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度 30パーセント  
課題の提出 30パーセント  
期末レポートまたは期末試験 40パーセント

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ファイナンス」を履修しておくことが望ましい

## フィナンシャル・インベストメント 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 中国ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 基人 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

領土問題を契機として新たな反日の火の手が上がり、過去の状況とはちがった側面で「チャイナ・プラス・ワン」、「チャイナ・リスク」などのキーワードが頻繁に目に触れるようになってきている。特に中国脅威論の多さには驚かされる。持続的高成長を実現してきた中国という現実的な巨大市場が存在しているからこそ、日系企業が中国ビジネスに対する大きな期待を寄せながら、過度な依存への警戒心を抱いている。中国市場と如何なる関わり方を持つかは広く関心を持たれる課題になっている。

本講義は中国市場の特性、ビジネス慣習を紹介した上、中国への進出企業のユニークなケースを取り上げ、それぞれの事業戦略パターン、事業展開の経緯、成功の秘訣、リスク対策、知的財産権など経験豊かな専門家が実際の経験を踏まえて伝授していく。

## 教科書 /Textbooks

基本的にはプロジェクターを使用。  
必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

高橋基人著「こんなにちがう 中国各省気質」草思社 2013年1月22日発売予定高橋基人著『中国人にエアコンを売れ!』草思社  
高橋基人著『「新しい中国」で成功する!』草思社  
高橋基人著『度胸で勝ち抜く中国ビジネス』双葉社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション～講義内容の構成、進行法、課題提出、グループ編成  
【市場の特性】、【ビジネス慣習】
- ② 日中間の経済相互依存関係  
【再び政冷経熱なのか】 【直接投資】
- ③ 中国ビジネス開拓事例A—機械メーカー  
【事業戦略の構築】【パートナーの物色】【変貌する中国市場】
- ④ 中国人とはどういう人達か!?  
【R.I.C.は重要】
- ⑤ 経営の現地化  
【人事の現地化】【中国ビジネス成功のためのポイント】
- ⑥ 日系企業に求められているポイントと課題  
【発展空間とは】【市場開拓】
- ⑦ 交渉の心得!
- ⑧ 危機管理  
【日常管理と非常時】【偽物商標対策と著名商標】
- ⑨ 中国の消費者行動と広報と広告宣伝活動、その戦略  
【ブランドイメージ】【媒体を使つての広報活動や企業広報としてのフォーラム】
- ⑩ 販売網の構築と差別化戦略  
【アフターサービス】【業教育】【現金取引】
- ⑪ 中国市場の変化を見抜け  
【消費者の嗜好】【過当競争】
- ⑫ 日系企業の弱点  
実例、受講者の感触を踏まえて議論する
- ⑬ 中国ビジネスで気をつけること  
駐在員、出張者の安全管理は益々重要に、ほか
- ⑭ 中国向け貿易ビジネスの開拓事例B—日中間加工貿易のケース  
【OEM】【合併事業】【三角貿易】【環境配慮型】
- ⑮ まとめ＝総合討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポート ( 50% )、授業の途中で課される課題への解答の精度 ( 30% )  
授業への参加姿勢 ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国市場に関する知識があるのが望ましいが前提とはしない。復習は必須。

## 中国ビジネス【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 環境政策【夜】

担当者名 垣迫 裕俊 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

北九州市は、わが国でも特異な環境政策の歴史を有する都市である。本授業では、北九州市での実践事例を題材にして、環境政策の基本的な考え方、環境ビジネス振興のポイント、環境問題における市民とのコミュニケーションのあり方、さらには低炭素社会に向けた企業活動やエネルギー政策の動向を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

授業の都度、資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『環境首都北九州市～緑の街を蘇らせた実践対策』北九州市環境首都研究会、日刊工業新聞社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①環境政策総論  
【講義全体の概要】
- ②環境政策の原則、手法  
【予防原則、拡大生産者責任、ポリシーミックス】
- ③持続可能性論  
【サステナビリティ、社会関係資本、公共政策の統合】
- ④北九州の公害対策史  
【全国総合開発計画、典型7公害、EOPとCP】
- ⑤エコタウン事業とは何か  
【総合環境コンビナート、実証研究、循環型社会】
- ⑥エコタウン事業の成果、展開、課題  
【政策評価、環境政策と産業政策、エコプレミアム】
- ⑦国際環境協力がら海外ビジネスへ  
【KITA、アジア低炭素化センター、水ビジネス】
- ⑧PCB処理事業、震災がれき受け入れ事業  
【情報公開、説明責任、リスクコミュニケーション】
- ⑨家庭ごみ収集制度の見直しと市民  
【経済的手法、分別、コスト】
- ⑩地球温暖化と国際社会の動向  
【IPCC、COP、ポスト京都議定書】
- ⑪低炭素社会に向けた政策動向  
【2050年、見える化、限界削減費用】
- ⑫次世代環境ビジネスとグリーンイノベーション  
【静脈産業、再生可能エネルギー、電力ネットワーク】
- ⑬北九州市の低炭素戦略  
【スマートコミュニティ、環境未来都市、緑の成長戦略】
- ⑭地域社会の持続可能性とは  
【経済・環境・社会的持続可能性、地域資源、福祉と雇用】
- ⑮まとめ

※授業の進捗度、学生の関心度に応じ、適宜変更します。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加姿勢 ( 30% )、授業中のディスカッションへの貢献度 ( 40% )、課題レポート ( 30% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

環境政策の基礎から実践までを体系的かつ実践的に学ぶとする学生。

# 環境政策【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

持続可能な社会、循環型社会、低炭素社会、リスクコミュニケーション、環境情報リテラシー

# 医療マネジメント【夜】

担当者名 舟谷 文男 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

医療は専門性が要求される特殊な公共的サービスであり、社会保障制度の一つとして重要な役割を担っている。わが国は、世界に類をみない国民皆保険制度がとられているが、前例のない少子高齢社会を迎え、制度改革が矢継ぎ早に行われている。大変革期における適切な医療資源の確保、良質で低廉な医療サービスの提供をどのように実現するかが社会課題となっている。しかし、どのような時代であっても合理性を持った医療サービスが求められる。本講では、多くの業種でも活用されているマネジメント技法が医療現場で応用されている状況を系統的に紹介し、医療マネジメントの要点を理解させる。

## 教科書 /Textbooks

Power Point 資料のプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

厚生労働省編『厚生白書』、的場恒孝編『医療科学入門』南江堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 序論 医療政策と医療マネジメント
- ② 医療は特殊な社会サービス
- ③ 医療サービス選択の自由と患者マネジメント
- ④ 医療サービスを支える医療資源のマネジメント
- ⑤ 医療安全のマネジメント
- ⑥ 医療費支払いの適正化
- ⑦ 医療サービスの価格設定と国民医療費
- ⑧ 医療情報システムによるマネジメントの可能性
- ⑨ 病院・診療所における医療経営の要点
- ⑩ 高度先進医療のマネジメント
- ⑪ 周産期医療・小児医療のマネジメント
- ⑫ 高齢者医療と介護のマネジメント
- ⑬ ライフサイクルごとの保健事業のマネジメント
- ⑭ 地域ケアネットワークのマネジメント
- ⑮ 医療マネジメントの指標設定と医療評価

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの評価 ( 100% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

「医療経済学」を履修しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

社会保障、医療需要、医療資源、診療報酬制度、地域医療計画、医療情報システム、医療安全、医療評価、QC / TQM , 医療マネジメント技法

# 福祉マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 芳賀 祥泰 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

少子超高齢社会において福祉は成長産業になっている。福祉サービス供給主体としては、社会福祉法人、医療法人、営利法人、NPO法人など多様になっている。福祉に携わる人は、これまで以上にマネジメントの必要性が増している。一方、これから福祉産業に参入をしようとするならば、逆に福祉マインドを学ぶ必要がある。つまり福祉産業に携わる人は、福祉マインド+マネジメント力が必須になる。福祉産業の充実が、医療産業とともに、産業としての成長だけでなく、今後は地域社会の中での地域ブランド力の重要な要素になる。福祉に携わる人だけでなく、他の産業に携わる人こそ知っておくべき内容である。毎回講義だけでなく討議を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし。プリントを配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

芳賀祥泰編著(2007年)『福祉マネジメント』エルダーサービス  
 小松理佐子編(2010年)『よくわかる社会福祉運営管理』ミネルヴァ書房  
 芳賀祥泰編著(2010年)『福祉の学校』エルダーサービス

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション 1  
【地域社会と福祉】
- ② イントロダクション 2  
【福祉経済、福祉産業】
- ③ 福祉マネジメント 1  
【福祉マネジメント概論】
- ④ 福祉マネジメント 2  
【ビジョン・ ミッション】
- ⑤ 福祉マネジメント 3  
【リーダーシップ】
- ⑥ 福祉マネジメント 4  
【組織風土・ 人材育成】
- ⑦ 福祉マネジメント 5  
【財務・ 法務】
- ⑧ 福祉マネジメント 6  
【リスクマネジメント】
- ⑨ 福祉マネジメント 7  
【経営戦略】
- ⑩ 福祉マネジメント 8  
【マーケティング】
- ⑪ ケーススタディ 1  
【社会福祉法人・ 医療法人】
- ⑫ ケーススタディ 2  
【生活協同組合・ NPO法人】
- ⑬ ケーススタディ 3  
【営利法人】
- ⑭ 課題発表会  
【課題についての討議】
- ⑮ まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ( 30% )、発表 ( 20% )  
 課題に対するレポート ( 50% ) で総合的に評価する。

## 事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から福祉問題および地域問題について関心を持ってテレビ、新聞、インターネット等で見ておいてほしい。

# 福祉マネジメント【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

社会保障制度、地域社会における諸問題について基礎知識を得ておいてほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉問題は暮らしの問題であり、地域社会の問題である。特にこれからは一般企業の人こそ関心を持ってほしい。超高齢社会において企業人に何ができるのかも考えてほしい。

## キーワード /Keywords

福祉問題、地域社会、福祉産業、福祉マネジメント、介護ビジネス

# ビジネス中国語【夜】

担当者名 /Instructor 松下 丹紅 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

東洋文化の大きな特徴の一つに、まず言語表現の建前と本音の違いをあげることができる。中国（中華）社会も例外ではない。ビジネスで常用される決まり文句、独特な言い回し、各種ビジネス書類の読み方、作り方を学んでいく。一定の中国語基礎を持っている方の受講が望ましい。

## 教科書 /Textbooks

中国語初級テキスト  
『仕事のための基礎中国語』（金星堂）2600円 及び 手作りプリントの配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指定。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①発音の総復習、中国語による自己紹介等
- ②中国商慣習、出迎えの時の会話
- ③車での移動、ホテルまでの案内
- ④ホテルの部屋を見る
- ⑤会社見学、数字の表現
- ⑥紹介、時間の表現
- ⑦電話を受ける時の会話
- ⑧⑨商談会話
- ⑩⑪契約書の翻訳
- ⑫⑬ビジネスレター
- ⑭価額交渉
- ⑮まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義への授業への参加姿勢（30%）、終了テスト（70%）によって評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

国際経営を履修しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 自治体政策【夜】

担当者名 吉村 弘 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

現在日本は、豊かな成熟社会の中で市民のニーズは高度化多様化し、他方、グローバル化・少子高齢社会として財政逼迫に直面している。その上自治体は「平成の大合併」後の本格的な地方分権のもとで、道州制や新しい国土形成計画など全国的な地域再編を迫られている。このような行政環境の変化に対応すると同時に、市民ニーズに合う政策課題を探求し、それらを政策形成に的確に反映させることは自治体運営の大きな課題である。本講義では、このような自治体の課題に応える人材の育成を目指して、自治体政策について、自治体を取り巻く環境変化、地域再編、産業と都市、政策形成上等の観点から考察する。受講生の希望次第では、研究報告をまとめるために役立つように、「報告・ディスカッション方式（報告者が自分の研究テーマにそって輪番で報告し、全員でディスカッションする）」を採用することも可能である。

## 教科書 /Textbooks

授業の際、テキスト資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

広島大学地域経済システム研究センター編(2002年)『地域政策の道標』ぎょうせい  
吉村弘(1999年)『最適都市規模と市町村合併』東洋経済新報社  
吉村弘・戸田常一・齋藤寛男編著(2002年)『グリーン共創序説 - - - 循環型社会を目指して - - -』同文館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション：講義のねらい・概要説明・注意事項など  
【WHATとHOW、課題設定と解決方法、問即答、知情意】
- ② 現代社会の潮流と政策課題探求①現代社会の潮流と公的部門の変容  
【現代の世界の動向、世界の中の日本、日本の中の公的部門】
- ③ 現代社会の潮流と政策課題探求②公的部門の変容と政策課題  
【市場と政府、民で出来ることは民で、公的部門の固有の役割】
- ④ 現代社会の潮流と政策課題探求③公的部門の変容と地域再編（その1）  
【地方分権、地方自治制度、市町村合併】
- ⑤ 現代社会の潮流と政策課題探求④公的部門の変容と地域再編（その2）  
【市町村合併の行方、道州制、国土形成計画】
- ⑥ 現代社会の潮流と政策課題探求⑤地域再編と地域間競争  
【都市間競争、地域の盛衰、地域間格差、生産性と地域動態】
- ⑦ 現代社会における都市と産業①地域間競争と産業  
【地域と産業、人口移動、足による投票】
- ⑧ 現代社会における都市と産業②経済発展と産業構造  
【リーディング産業、経済発展、産業構造、生産性】
- ⑨ 現代社会における都市と産業③工業化とサービス経済化  
【工業化、サービス経済化、産業が都市を造る時代、都市が産業を造る時代】
- ⑩ 現代社会における都市と産業④サービス経済化と知価社会  
【サービス経済化の新しい展開、付加価値生産性、知価社会】
- ⑪ 成熟社会における自治体の政策課題①市民社会の成熟と市民ニーズの多様化  
【市民社会の成熟、地域再編、産業と都市、持続可能性、市民ニーズ】
- ⑫ 成熟社会における自治体の政策課題②活力ある福祉社会  
【公立と公平、格差社会、社会福祉基礎構造改革】
- ⑬ 成熟社会における自治体の政策課題③政策形成上の課題（その1）  
【市民ニーズ、公民パートナーシップ、情報開示、説明責任】
- ⑭ 成熟社会における自治体の政策課題④政策形成上の課題（その2）  
【行政評価、インプット、アウトプット、アウトカム、市場化テスト】
- ⑮ 討議とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のプレゼンテーション・ディスカッションとレポートとを各々50%のウェイトを目途として総合的に成績評価したい。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 自治体政策 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学を履修しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# モノづくり競争力の強化【夜】

担当者名 /Instructor 雨澤 政材 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

わが国は、資源小国であり、製造業が勝ち残るためには、モノづくりの競争力で世界に優位でなければならない。メイド・イン・ジャパンとして、世界トップのものづくり大国だった日本は80年代には勤勉さがもたらした高品質でその優位を保ってきたが、いまやそれだけでは追い上げてきている諸国に足元を脅かされてきている。この現状を踏まえ、今後モノづくり競争力をどのような方法で強化すべきかを実務家の視点から、人材育成と工場運営のあり方、生産性の重要性、生産技術などに重点をおいて、その対策について、事例を紹介しながら解説する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない、プリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

その都度指定する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義方式に加えて、DVDやプロジェクターを活用し、分かりやすい解説を心がける。質疑応答の時間を十分に取し、理解を深めてもらう。

- ① モノづくり企業に求められる競争力
  - 【開発からアフターサービス】 【商品開発力】 【生産技術力】 【工場運営能力】
  - 【宣伝・販売力】
- ② 工場管理概論
  - 【企業による工場の位置づけ】 【工場管理の基本】 【工場の持つべき要件】
- ③、④ 工場における労務管理
  - 【労務管理の変遷】 【労務の多様化】 【世界・日本・九州の労働市場の現状と将来】
- ⑤、⑥ 原価管理
  - 【原価管理の体系】 【原価構成・費目区分】 【開発段階での原価改善】
  - 【製造原価の把握と改善】
- ⑦、⑧ 品質管理
  - 【トヨタの品質管理】 【お客様指向】 【停めるライン、止まる機械】
  - 【自工程完結思想】 【トレーサビリティ】 【日常管理】 【変化点管理】
- ⑨ トヨタ生産方式の生まれた背景
  - 【トヨタの歴史】 【経営理念】 【トヨタ生産方式とは】 【トヨタ生産方式は展開が難しい】
- ⑩ トヨタ生産方式の基本的な手法
  - 【5S】 【職場の見える化】 【ムダの削減・排除】 【生産ラインの作り方】
- ⑪ トヨタ生産方式の具体的な改善の進め方
  - 【基本姿勢】 【改善の切り口】 【生産仕掛けの改善】 【人の動きの改善】
  - 【物流改善】 【品質改善】
- ⑫ 新製品の生産準備
  - 【SE活動】 【品質保証活動】 【生産準備活動】 【製造準備活動】
- ⑬ 生産技術・製造技術からのアプローチ
  - 【真似の出来ない技術】 【自社独自の設備や工程】
- ⑭ 人材育成と技能伝承・製造現場のモチベーション管理
  - 【標準化と技能伝授】 【ワーキングライフプラン】 【チームプレーという現場風土の伝承】 【インセンティブ制度の功罪】 【公平な人事制度】
- ⑮ 工場における実践事例見学
  - トヨタ自動車九州(株)のレクサスラインで確認(1月の祝日に実施)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題についてのレポートで評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

# モノづくり競争力の強化 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

近年、社会的課題をビジネスのスキームを用いて解決しようとする「ソーシャルビジネス」への期待が高まっている。本講義では、まず経済社会におけるソーシャルビジネスの位置づけを整理したうえで、ソーシャルビジネスの現状を理解する。そのうえで、ソーシャルビジネスの現場のマネジメントに関する課題について学ぶ。具体的には、解決すべき社会的課題の設定からビジネスモデルの作成までを事例やケース分析などを通じて学習する。講義では、実際にソーシャルビジネスを立ち上げ、運営していくことを想定した議論を行い、知識と実践的なマネジメント力を身につけることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

駒崎弘樹『「社会を変える」を仕事にする』ちくま文庫、2011年。  
その他の文献については、講義のなかで紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション  
【ソーシャルビジネスとは何か】
- ②日本におけるソーシャルビジネスの現状  
【ソーシャルビジネスの現状、課題、育成策】
- ③ミッションをつくる 1  
【社会的課題の抽出と発見の手法】
- ④ミッションをつくる 2  
【社会的課題を解決するスキーム】
- ⑤事業をつくる 1  
【ソーシャルビジネスの事業構造】
- ⑥事業をつくる 2  
【ソーシャルビジネスにおけるビジネスモデルの特徴】
- ⑦中間プレゼンテーション 1  
【ソーシャルビジネスプランの構築と発表】
- ⑧中間プレゼンテーション 2  
【各自のプランの課題と解決方法を探る】
- ⑨利益をつくる 1  
【ソーシャルビジネスの顧客と収入】
- ⑩利益をつくる 2  
【ソーシャルビジネスの収益構造の特徴】
- ⑪チームをつくる 1  
【ソーシャルビジネスを担う組織と人材マネジメント】
- ⑫チームをつくる 2  
【ソーシャルビジネスを支える人的ネットワーク】
- ⑬社会をつくる 1  
【ソーシャルビジネスからソーシャルイノベーションへ】
- ⑭社会をつくる 2  
【社会をデザインする】
- ⑮ソーシャルビジネスプラン・プレゼンテーション  
【プレゼンテーションとディスカッション】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度（発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など）：50%、課題の内容（レポートなど）：50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備は必要ないが、地域づくり総論やNPO / NGO実践論を併せて受講すると、より理解が深まると思われる。

# ソーシャル・ビジネス【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 医療経済【夜】

担当者名 /Instructor 舟谷 文男 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

医療は人間社会にとって必須の公共的社会サービスであり、社会保障制度の一つとして重要な役割を担っている。また、医学・医療技術は日進月歩の発展をみているが、その恩恵を、いつでも、誰でも、どこでも受けられる医療システムの仕組みはどのように構築すべきか、その社会コストを誰が支払うのか、人の命の価格は決められるのか、医療サービスを提供する専門職種や医療施設はどのような組織構造を持っているのか、経世済民の視点から、医療経済学の基本を幅広く理解させる。

## 教科書 /Textbooks

Power Point 資料のプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

厚生労働省編『厚生白書』、真野俊樹著『入門医療経済学』中公新書、的場恒孝編『医療科学入門』南江堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 医療経済学序説
- ② 社会保障制度の中の保健・医療・福祉
- ③ 医療需要構造
- ④ 医療サービスの選択(需要・供給関係)
- ⑤ 医療サービスの値段(診療報酬制度)
- ⑥ 医療提供構造と医療資源
- ⑦ 地域医療システム-I 地域・職域の保健・医療・福祉(プライマリケア)
- ⑧ 地域医療システム-II 地域の医療計画
- ⑨ 医療制度改革に翻弄される勤務医・医療施設
- ⑩ 医療保障と地域医療
- ⑪ 医療安全管理
- ⑫ 医療情報システムの構築と運用(1)
- ⑬ 医療情報システムの構築と運用(2)
- ⑭ 医療評価
- ⑮ 医療崩壊からの地域医療再生?

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの評価(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

特に規定しないが、「公共経済学」を履修することが望ましい

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

社会保障、医療需要、医療資源、診療報酬制度、地域医療計画、医療情報システム、医療安全、医療評価

# 社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 好則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

**授業の概要 /Course Description**  
 わが国は、現在少子高齢化社会を迎え、社会保障の面において、大変困難な時代に遭遇しています。これから我々は、どのような時代を迎え、どのように生きていけばいいのかを、みんなで考えていきたいと思っています。少子化、高齢化、年金、いじめ、虐待、貧困など問題が山積しています。現実社会で、発生している様々な事象を検証し、これからの進むべき方向について検討します。

**教科書 /Textbooks**  
 OHP、VTR、パワーポイント等を使用し、プリントを配布

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
 棕野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ、杉原好則監修『福祉サービスの質の向上を目指して』メディカルレビュー社、河野正輝・中島誠・西田和広編『社会保障論』法律文化社、久塚純一・山田省三編『社会保障法解体新書』法律文化社など。授業の進展に応じて適宜、新たに紹介する。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
 毎回の講義は、1・2時限の連続講義(計180分)とする予定。8回分の内容は以下の通り。  
 ①② 社会保障制度の歴史  
 日本の社会保障制度がどのように作られてきたかを学ぶ  
 【社会保障、世代間扶養、防貧、救貧】  
 ③④ 公的扶助制度  
 生活保護制度の問題点について学ぶ  
 【公的扶助、生活保護、所得再分配、貧困対策】  
 ⑤⑥ 高齢化社会と介護保険  
 高齢化社会を迎え、高齢者の実態と介護保険制度について学ぶ  
 【少子高齢化社会、介護保険、介護予防、介護サービス、要介護認定】  
 ⑦⑧ 高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」の見学実習  
 高齢者施設の現場を見てこれからの高齢者施設の在り方について考える  
 【高齢者複合施設、特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム、ショートステイ、デイサービス、高齢者施設の選び方】  
 ⑨⑩ 障害者福祉【⑨】障害者自立支援法【⑩】  
 身体障害者、知的障害者、精神障害者の福祉について考える。  
 【各種障害者の定義、各種障害者手帳、障害者福祉の歴史、障害者自立支援法】  
 ⑪⑫ 児童福祉「いじめ【⑪】」、「虐待【⑫】」  
 今学校では何が起きているのか？いじめと児童虐待の実態について考える  
 【いじめとは、虐待とは、いじめ対応、虐待対応、児童虐待防止法】  
 ⑬⑭ 福祉サービス第三者評価、福祉サービスにおけるリスクマネジメント  
 福祉サービスにおける第三者評価について考える【⑬】  
 福祉サービスにおけるリスクマネジメントについて考える【⑭】  
 【福祉サービス第三者評価、福祉サービスリスクマネジメント】  
 ⑮ まとめ  
 【地域、地域づくり、孤独死、無縁社会】

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 出題に対するレポート60%、ディスカッション30%、残り10%は授業への参加姿勢、授業中の意見発表などを総合的に判断する。

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 必要があればその都度連絡します。

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 自治体経営【夜】

担当者名 /Instructor 津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○		○

## 授業の概要 /Course Description

「民間にできることは民間に」、「地方にできることは地方に」という基本的な考え方の下に推進された地方交付税改革等の「三位一体の改革」などにより、地方財政は大きな転機に直面した。さらに「地域主権戦略大綱」の閣議決定、首長と議会の二元制のあり方を含む地方自治法の見直しや、大阪都構想をはじめとした政令指定都市を含む大都市制度の見直しなどが、地方制度調査会で検討が進められている。自治体経営においては、民間企業と同様にヒト、カネ、モノなどの資源を活用して、地域を効率的・効果的、かつ持続可能に経営していくことは変わらない。そのため自治体の人事・組織、税財政、資産などの仕組みなど公共セクターの特性を十分に理解したうえで、福祉・医療、都市計画など個別の政策分野を通して、自治体の経営戦略、ガバナンスの課題、方向等について検討する。講義の到達目標は、①地方自治体の仕組み、行動原理の理解、②地方自治体の財政分析手法の理解、③地方自治体の各行政分野におけるケーススタディの改革案の提示、である。

## 教科書 /Textbooks

授業の際に、必要に応じて資料を配布します

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『地方財政論入門』(2009年) 佐藤主光 新世社
- 『新・地方分権の経済学』(2006年) 林宜嗣 日本評論社
- 『行政学(新版)』(2001年)『行政の活動』(2000年) 西尾勝 有斐閣
- 『ホーンブック 地方自治』(2011年) 磯崎初仁等 北樹出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 地方自治体を取り巻く社会・経済環境の変化  
【少子・高齢化等、地域経済の停滞】
- ② 地方自治体の仕組み・組織・人事制度  
【組織・権限、公務員倫理】
- ③ 地方分権改革などの動き  
【地方分権、自治法の改正などの動き】
- ④ 特定課題テーマ  
【ゲストスピーカーと学生による意見交換、論議】
- ⑤ 議会  
【議会の役割、課題】
- ⑥ 地方自治体の財政制度I  
【国と地方財政制度の特色】
- ⑦ 地方自治体の財政II  
【財政構造、一般会計・特別会計・企業会計など】
- ⑧ 地方自治体の財政III  
【財政分析4表を読む】
- ⑨ 地方自治体の計画・行政評価  
【基本構想など計画、行政評価】
- ⑩ 地方自治体の政策I  
【保健・福祉・医療政策】
- ⑪ 地方自治体の政策II  
【産業・地域経済振興、地域づくり・コミュニティ政策】
- ⑫ 地方自治体の政策III  
【教育、都市計画】
- ⑬ 課題発表、議論  
【学生による意見交換、論議】
- ⑭ 監査、住民訴訟など  
【内部統制、コンプライアンス】
- ⑮ まとめ  
【これからの自治体経営の課題】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、課題に対するプレゼンテーション(70%)、授業の状況(質疑、意見、発表等30%)をもとに総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 自治体経営 【夜】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があれば、その都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生の皆さんの活発な議論や質疑を期待します。

## キーワード /Keywords

# イノベーション・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「イノベーション」は幅広い概念であるが、本講義では、企業の新商品創出マネジメントに焦点をおき、新商品創出にまつわるイノベーション・マネジメントとMOT（技術経営）の基礎的な諸理論・枠組みを学ぶ。基礎的な諸理論の理解と実践力の向上のため、各講義回では、ミニ・ケースや雑誌・新聞記事を読み、あるいは映像を見て事例分析やケース・ディスカッションを行い、学習を進めることを基本とする。取り上げる事例は、主に製造業とその周辺を中心とした新商品創出にまつわる事例となる見込みである。また、イノベーションと密接に関連する創造性や、新商品創出にまつわる組織や人材の問題も扱うことを計画している。本講義の到達目標は、イノベーション・マネジメントとMOTを実践するうえでの基礎的な知識を習得することである。

## 教科書 /Textbooks

特に、指定せず、適宜資料を配布する。（なお、ケースを用いる場合、そのケース代金（1冊千数百円）が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 近能善範・高井文子『イノベーション・マネジメント』新世社,2010.
- ・ 一橋大学イノベーション研究センター(編)『イノベーション・マネジメント入門』,日本経済新聞社,2001.
- ・ 延岡健太郎『MOT“技術経営”入門』日本経済新聞社, 2006.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション(イノベーションとは何か?)【イノベーション】
- ②イノベーションのプロセス【企業家精神, 需要プル, 技術プッシュ】
- ③イノベーションの普及【キャズム, リードユーザー】
- ④イノベーションのパターン【ドミナント・デザイン】
- ⑤イノベーションと競争優位(1)【連続・非連続イノベーション】
- ⑥イノベーションと競争優位(2)【破壊的イノベーション】
- ⑦イノベーションと企業間システム(1)【デファクトスタンダード】
- ⑧イノベーションと企業間システム(2)【オープンイノベーション】
- ⑨イノベーションと組織能力【コアコンピタンス】【コア技術】
- ⑩イノベーションと組織能力【ダイナミック・ケイパビリティ】
- ⑪イノベーションと組織【組織文化】【組織風土】
- ⑫イノベーションと組織【製品開発組織】【重量級PM】
- ⑬イノベーション人材【技術者育成】
- ⑭イノベーション人材【創造性】
- ⑮コースのまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度30%、小レポート30%、期末レポート40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営に関する知識があることが好ましいが、履修の前提とはしない。  
 予習や復習にはかなりの時間が必要となる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 基礎中国語【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○		

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、日文中訳と中文日訳等の練習を通じて、両国語の特徴に対する理解を深める。2学期の「ビジネス中国語」を学習するため基礎を固める。なお、将来中国語検定試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も紹介し、練習する。

## 教科書 /Textbooks

『比較中国語 [ 実用・基礎編 ] 』（王 占華 著、駿河台出版社）

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 中国語概説・単母音と声調
- 2 . 子音と複母音
- 3 . 鼻母音・音節と音便・教室用語
- 4 . 発音の復習とまとめ
- 5 . 「自己紹介」( 判断文・疑問文 1・人称代名詞 )
- 6 . 復習と実用練習
- 7 . 「空港で」( 授受表現・存在表現・疑問文 2 )
- 8 . 復習と実用練習
- 9 . 「両替」( 願望表現・数字・場所 )
- 10 . 復習と実用練習
- 11 . 「道を尋ねる」( 方位表現・移動表現・禁止表現 )
- 12 . 復習と実用練習
- 13 . 「乗り物に乗る」( 動作の進行・状態の持続・動作の実現 )
- 14 . 「宿泊」( 可能表現・時点・時量 )
- 15 . 復習と実用練習

[ 受講者の学習経験の有無と要望に応じて、テキストや授業内容又はスケジュールを調整することがある。その際にテキストの代わりにプリントを配布する。 ]

## 成績評価の方法 /Assessment Method

普段の練習 50%、期末試験 50% の割合で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、積極的な練習を望んでいる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 基礎中国語【夜】

## キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

# 産学連携と事業創造 【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

知識社会へのシフトによって、わが国では1990年代後半から大学や研究機関等の知的インフラの成果をいかに効果的にビジネスに結びつけるかが重要課題となっている。そのため、行政はこの10年ほど積極的に科学政策や産業政策を展開させて「産学連携」を押し進めている。しかしながら、その現場では各担い手の認識の不足やお互いのコミュニケーション不足によって多大な困難が生じており、順調に成果があがっているわけではない。よって、本講義では産学連携による新事業開発に焦点をあて、成果をあげるためのマネジメントについて事例を踏まえながら考察する。また、産学連携の成果の1つである知財の戦略については、⑦～⑩において弁護士知財ネット九州・沖縄地域会から講師を招聘し、講義を実施する。

なお、本講義の到達目標は、①知財を意識した産学連携のスキームをプランニングできる、②将来性があり現実的な産学連携プロジェクトのテーマを探索できる、③有機的かつ実践的なチーム体制を提案できる、である。

## 教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○馬場靖憲 / 後藤晃 『産学連携の実証研究』 東京大学出版、玉井克哉  
宮田由紀夫 『日本の産学連携』 玉川大学出版部  
二神恭一 / 日置弘一郎 『クラスター組織の経営学』 中央経済社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①産学連携のバックグラウンド  
【知識経済】 【コラボレーション】 【イノベーション】
- ②我が国の地域産業政策と科学政策の変遷  
【技術移転】 【クラスター政策】
- ③産学連携支援組織の仕組みと活動内容  
【TLO】 【産学連携支援組織】 【コーディネート】 【行政の役割】
- ④産学連携支援組織の実態と課題～クラスターマネジャーの経験から～
- ⑤産学連携の実際～U教授とS社の事例から～ (現場報告)
- ⑥産学連携の実際～U教授とS社の事例から～ (ディスカッション)
- ⑦知的財産権の基礎【特許権】 【特許申請】
- ⑧共同研究開発計約のポイント  
【秘密保持契約】 【基本契約】 【共同開発契約】 【職務発明規定】
- ⑨知的財産権における侵害対応【特許権】 【商標権】
- ⑩企業における知的財産権戦略 (ディスカッション)  
～ケーススタディ: K B M社～
- ⑪産学連携プロジェクトの事業化に向けた課題I (ディスカッション)  
～ケーススタディ: K社～
- ⑫産学連携プロジェクトの事業化に向けた課題II (ディスカッション)  
【マーケティング】 【デスバレーの克服】 【事業化体制】 【事業創造】
- ⑬産学連携プロジェクト・プランの作成I  
～テーマやリソースの探索～  
【成長産業戦略】 【スマート・グリッド】 【EV】 【感性ビジネス】 【環境ビジネス】
- ⑭産学連携プロジェクト・プランの作成II  
～プロジェクト体制の構築と知財への対応～
- ⑮産学連携プロジェクト・プランのプレゼンとまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ⑪のケーススタディに対する課題およびディスカッション (40%)
- ⑬および⑭の成果である産学連携プロジェクトプラン (40%)
- その他の日常的なディスカッションに係わる貢献度 (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 産学連携と事業創造 【夜】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

知的財産権に関連する講義を2コマ実施しますが、特に法律的な知識は求めません。ただし、イノベーションや商品開発（事業創造）に対する基礎的な知識を習得していることが望ましいです。また、ポーターのクラスター論の習得をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

産学連携や知的財産など一般的にはとっつきにくいテーマを扱いますが、できる限りわかりやすく講義を行いますので気軽に受講してください。

## キーワード /Keywords

コラボレーション、イノベーション、知的財産権、産学連携、チームビルディング、デスバレー、クラスター政策

# ホスピタリティ・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 田村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師, 平野 健二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
										○	○	

## 授業の概要 /Course Description

厚生労働省の労働力調査によると、1950年以降、第3次産業の就業者数は一貫して増加傾向にある。第2次産業は1992年をピークに減少に転じた。構成比でいうと2010年の第3次産業は70.2%、第2次産業は24.8%。第2次産業は構成比ベースでいうと1973年をピーク(36.6%)に減少傾向を続ける。いわば、経済のサービス化は確実に進み、第3次産業が日本経済を牽引するリーディングセクターに位置して久しい。他方、第3次産業=低生産性産業である状況は変わっていない。何が問題であり、何をどうすれば問題は解決するのか。本講義では、マネジメントを切り口に、サービスビジネス、サービス産業の問題と課題を解明する。サービスを扱うビジネスでは、マネジメントもマーケティングもモノを扱うものとは異なることを理解し、サービスビジネスとは何かを新しい視点から解説することが受講生に求められる到達点である。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に事前参考資料を含め紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① サービス産業の現状と構造変化をマクロ的に展望する  
【各国に共通の産業構造変化】【産業構造変化を規定する要因】
- ② サービスの特性 【モノ、情報との対比】
- ③ サービス・マーケティングとは? 【モノが対象のマーケティングとの違い】
- ④ サービス・マネジメントとは?  
【フラットな組織】【ソフトリーダーシップ】【イノベーション】
- ⑤ one to oneマーケティングの必然  
社会環境の変化【マスマーケティングの機能不全】【コモディティからパーソナルへ】  
同質競争の激化【商圏の狭小化】【市場創出の必要性】
- ⑥ 価値の発見・定義 【資本の本質】【価値と価格】
- ⑦ 価値の伝達 【学生によるプレゼンテーション「各自が定めた商品の価値を伝える」】
- ⑧ 顧客の発見・創造  
【顧客のプロファイリング】【デモグラフィー】【購買行動(顧客ID-POS)】【定性分析】
- ⑨ 情報伝達ツールの活用 【メディア特性】【AIDMA】
- ⑩ 学生によるプレゼンテーション 【価値伝達】【評価】
- ⑪ サービスをめぐる競争戦略 【ブランド】【ホスピタリティ】【標準化とローカル化】
- ⑫ 組織のダイバーシティとマネジメント 【オープン】【透明性】【分権】
- ⑬ 組織デザインとマネジメント 【鍵となるのはミッション】
- ⑭ イノベーション、クリエイティビティ 【リバース・イノベーション】【組織変革】
- ⑮ 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、プレゼンテーション25%、討議に対する貢献25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マネジメント、マーケティングに関して学部レベルの理解が求められる。講義中盤のプレゼンテーションワークには相応の事前準備が求められる。

## 履修上の注意 /Remarks

双方型の講義スタイルで進めます。積極的な発言が受講生には求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# アジア型経営【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 岸本 千佳司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
										○		○

## 授業の概要 /Course Description

日本における地域産業振興、空洞化の回避、経営国際化の促進をめぐる議論では、東アジア、中でも「中華圏」を抜きに語れなくなっており、「華人系要因」「中国要因」を媒介にした東アジア域内経済の一体化が急速に進んできた。こうした現実に鑑み、本講義は日本企業の対東アジアビジネス展開に役立つ現地企業の経営様式に関する体系的知識と分析視点の提供を試みている。前半においては儒教文化の影響下にある中華系企業の経営様式の主要側面を取り上げ、中国大陸系企業、台湾系企業の企業制度と経営システムの特徴、競争優位性などにメスを入れていく。全体を通して、日本企業との比較を心掛ける。

## 教科書 /Textbooks

手作り資料を配布していく予定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

大橋英夫、丸川智雄『中国企業のルネサンス』岩波書店  
 王効平、尹大栄、米山茂美『日中韓企業の経営比較』税務経理協会  
 王効平『華人系資本の企業経営』日本経済評論社  
 末廣昭『ファミリービジネス論』名古屋大学出版会  
 担当者が執筆した関係調査報告資料

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション：なぜ東アジアか？  
【儒教資本主義】【開発独裁】【キャッチアップ型工業化】
- ② 儒教文化圏の財閥企業  
【韓国財閥】【華人系財閥】
- ③ 東アジア財閥系企業の経営様式I  
【統治構造】【優位性と脆弱性】【事業継承】
- ④ 東アジア財閥系企業の経営様式II  
【経営の内部特性】【戦略立案】【組織特性】
- ⑤ 「ネットワーク重視型」とは  
【生活文化と企業文化】【資本関係】【取引関係】
- ⑥ 中国企業統治の変遷、課題  
【国家株主】【中国型統治？】【独立取締役】【内部統制】
- ⑦ 形成されつつある中国企業の新経営システム  
【経営システム】【環境適応理論】
- ⑧ 経営システムの主要要素  
【経営目標】【経営戦略】【経営組織】【管理スキーム】
- ⑨ 台湾・アジアの産業クラスター  
【分業構造】【企業間ネットワーク】【サイエンスパーク】
- ⑩ 台湾・アジアの創業・新事業支援体制  
【イノベーションシステム】【ベンチャー支援】
- ⑪ グローバル経済における台湾・アジア企業の競争優位性  
【受託製造業 (OEM / ODM)】【Global Value Chain ( GVC )】【アップグレーディング】
- ⑫ 台湾・アジア企業のブランドマーケティング  
【中国・新興国市場開拓】【ブランド経営】
- ⑬ 台湾・アジア企業の環境経営  
【低炭素社会】【企業の社会的責任 ( CSR )】【グリーン産業】
- ⑭ 台湾・アジア企業の成長ダイナミズム：日本企業との競合  
【ビジネスモデル】【チャイワン ( Chaiwan )】【企業内国際分業】【産業空洞化】
- ⑮ 総合質疑

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出状況・完成度 50%、討議参加の積極さ50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# アジア型経営 【夜】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◇ 事前配布資料の予習をした上の受講が望ましい
- ◇ 必要があればその都度連絡します

## 履修上の注意 /Remarks

- ◇ 「国際経営」との同時受講が望ましい
- ◇ 課題提出期限の厳守

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ◇ 双方向のコミュニケーションを心掛けて進めたいので、積極的な発言、質疑を期待しています

## キーワード /Keywords

# 公的プロジェクト・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 片山 憲一 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
										○	○	

## 授業の概要 /Course Description

魅力ある地域づくりにあたって、採算性は良くないが、社会的な効用が高く取り組むべき地域プロジェクトが多々ある。この講義では、純民間では取り組みにくい地域プロジェクトを具体化する手順について、構想・企画のプロジェクト化、新たなプロジェクトのマーケット分析、資金調達方法（整備手法）、マネジメント手法を学ぶ。また、実際のケーススタディプロジェクトを通して事前・事後の評価方法について勉強する。到達目標は、①プロジェクトの素材発掘が出来る。②構想を企画化出来る、③資金提供機関に提出するプロジェクト目論見書が書ける。

## 教科書 /Textbooks

講義にあわせてその都度配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

松下文洋著『道路の経済学』（講談社現代新書）  
 山重慎二編著『日本の交通ネットワーク』（中央経済者）  
 広井良典著『創造的福祉社会』（ちくま新書）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 地域プロジェクトマネジメント講座全体の概観
- ② プロジェクトの分類（20世紀型のプロジェクトから21世紀型へ）
- ③ 地域プロジェクトの構想から企画まで（交通需要予測の考え方を参考に）
- ④ 地域プロジェクトの構想から実現まで（平尾台自然の郷を参考に）
- ⑤ プロジェクトの費用便益分析（道路のB/Cを例題として）
- ⑥ 地域プロジェクトと（解決手法としての）ソーシャルビジネス
- ⑦ 地域プロジェクトの評価（日本の港湾プロジェクト）ひびきコンテナターミナル
- ⑧ 空港プロジェクトのケーススタディと新規航空会社の立ち上げ
- ⑨ 地域を観光地化するプロジェクト（門司港レトロ事業）
- ⑩ 街づくりプロジェクト（紫川マイタウンマイリバー事業、コムシティの再生）
- ⑪ 地域プロジェクトの実現化手順（到津の森公園などを参考に）
- ⑫ 演習-1（サッカー用新球技場）
- ⑬ これからの地域プロジェクト（次回の宿題）
- ⑭ 演習-2 各自の構想のプロジェクト化演習
- ⑮ 課題試験の解説

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業時における積極的な発言30%、課題プロジェクト(レポート20%、プレゼン10%)  
 期末試験40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学の入門書程度の知識の習得。特にミクロ経済学。大竹文雄編「こんなに使える経済学」（ちくま新書）、小島寛之著「経済学の思考法」（講談社現代新書）などを読んでおくと良い。

## 履修上の注意 /Remarks

講義は2コマ連続の隔週講義を基本とします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公共の補助金を有効に活用して立ち上げたスターフライヤープロジェクトの事例研究など、通常では実現が困難な事業の立ち上げに役に立つ講義にしたい。また、新たな雇用は今後どのような分野で起こってくるのかを知る手がかりを伝えたい。

## キーワード /Keywords

多様な資金調達手法、便益評価、地域を元気にする。

# NPO / NGO実践論 【夜】

担当者名 /Instructor 奥田 知志 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	2年					
対象入学年度 /Year of School Entrance			2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、NPOの果たす社会的役割をより現場に近い視点から検証する。また、今後の社会におけるNPOの可能性を模索しつつ、行政、企業、地域社会との社会的協働におけるNPOの果たす役割について考察する。  
 一方日本においてはNPO法制定より10年に満たず、組織、資金の脆弱さと共にNPOの存在意義そのものが問われている。なぜ行政ではなく、また企業でもなく、さらに既存の公益法人ではなく、NPOが必要とされるのかを具体的な課題と向かい合う上で検証したい。また、NPOの運営についても検討する。

## 教科書 /Textbooks

授業ごとに資料を配布

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- ① 『ホームの回復』 明石書店
  - ② 『世界のNPO』 早稲田大学出版部
  - ③ 『NPOという生き方』 PHP新書
- その他授業にて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン  
【NPOの現代的意義 - 草の根の視点から】
- ② NPO法およびNPOの現状について  
【NPOとは何か】
- ③ NPOの視座-基盤としてのミッション  
【使命の問題】
- ④ ボランティア論  
【無償・有償ボランティア】
- ⑤ 協働論 1  
【行政との協働】
- ⑥ 協働論 2  
【企業との協働】
- ⑦ 協働論 3  
【地域との協働】
- ⑧ NPOの実際 1  
【北九州ホームレス支援機構の事例】
- ⑨ NPOの実際 2  
【福祉NPOの事例】
- ⑩ NPOの実際 3  
【環境NPOの事例】
- ⑪ NPOの運営について  
【人材・組織・財政】
- ⑫ NPOビジネス論  
【NPOとビジネス】
- ⑬ 海外のNPOの事例から 1  
【アメリカの場合】
- ⑭ 海外のNPOの事例から 2  
【ヨーロッパの場合】
- ⑮ まとめ  
【NPOの可能性について】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業における発表(40%)およびレポート(60%)にて評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

# NPO / NGO実践論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## グループディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。具体的には、あらかじめ決められた小グループごとに、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。

なお、グループディスカッションIの到達目標は、①主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる、②実践的な研究テーマについて現実的な計画書を書ける、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導  
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導  
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。具体的には、あらかじめ決められた小グループごとに、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。

なお、グループディスカッションIの到達目標は、①主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる、②実践的な研究テーマについて現実的な計画書を書ける、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導  
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導  
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。具体的には、あらかじめ決められた小グループごとに、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。

なお、グループディスカッションIの到達目標は、①主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる、②実践的な研究テーマについて現実的な計画書を書ける、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導  
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導  
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。具体的には、あらかじめ決められた小グループごとに、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。

なお、グループディスカッションIの到達目標は、①主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる、②実践的な研究テーマについて現実的な計画書を書ける、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導  
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導  
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションI【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。具体的には、あらかじめ決められた小グループごとに、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。

なお、グループディスカッションIの到達目標は、①主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる、②実践的な研究テーマについて現実的な計画書を書ける、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導  
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導  
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションI【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。具体的には、あらかじめ決められた小グループごとに、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。

なお、グループディスカッションIの到達目標は、①主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる、②実践的な研究テーマについて現実的な計画書を書ける、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導  
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導  
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。具体的には、あらかじめ決められた小グループごとに、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。

なお、グループディスカッションIの到達目標は、①主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる、②実践的な研究テーマについて現実的な計画書を書ける、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導  
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導  
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。具体的には、あらかじめ決められた小グループごとに、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。

なお、グループディスカッションIの到達目標は、①主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる、②実践的な研究テーマについて現実的な計画書を書ける、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導  
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導  
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションI【夜】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションIの第一義的な目的は、徹底した討議とコミュニケーションを深めることである。具体的には、あらかじめ決められた小グループごとに、各専任教員によるテーマ提供およびファシリテーションのもとで、グループ学習、グループ討議を繰り返し、各自の研究テーマの探索、発見を行う。そのうえで、最終的には各グループの担当の専任教員のもとで、成果としての研究プロポーザル（研究計画書）の作成・報告を行う。

なお、グループディスカッションIの到達目標は、①主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる、②実践的な研究テーマについて現実的な計画書を書ける、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①～⑨ 各専任教員のローテーションによる指導  
【各専任教員の専門分野に応じたディスカッション】
- ⑩～⑭ 各グループ担当の専任教員による指導  
【研究プロポーザル（研究計画書）の作成】
- ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザル（研究計画書）に対して各グループの担当の専任教員が評価する（100%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションII 【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

グループディスカッションIIの到達目標は、①グループの各メンバーと協力して研究レポートを完成させる、②研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を使うことができる、③研究成果を第三者に対して適切にプレゼンテーションできる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②~③ 課題討議1  
【研究テーマの抽出】
- ④~⑤ 課題討議2  
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥~⑦ 課題討議3  
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧~⑩ 課題討議4  
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議5  
【分析結果の検討】
- ⑫~⑭ グループ研究レポートの作成  
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表  
【研究科内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループディスカッションIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションII 【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

グループディスカッションIIの到達目標は、①グループの各メンバーと協力して研究レポートを完成させる、②研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を使うことができる、③研究成果を第三者に対して適切にプレゼンテーションできる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②~③ 課題討議1  
【研究テーマの抽出】
- ④~⑤ 課題討議2  
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥~⑦ 課題討議3  
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧~⑩ 課題討議4  
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議5  
【分析結果の検討】
- ⑫~⑭ グループ研究レポートの作成  
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表  
【研究科内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループディスカッションIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# グループディスカッションII 【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

グループディスカッションIIの到達目標は、①グループの各メンバーと協力して研究レポートを完成させる、②研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を使うことができる、③研究成果を第三者に対して適切にプレゼンテーションできる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②~③ 課題討議1  
【研究テーマの抽出】
- ④~⑤ 課題討議2  
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥~⑦ 課題討議3  
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧~⑩ 課題討議4  
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議5  
【分析結果の検討】
- ⑫~⑭ グループ研究レポートの作成  
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表  
【研究科内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループディスカッションIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションII 【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

グループディスカッションIIの到達目標は、①グループの各メンバーと協力して研究レポートを完成させる、②研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を使うことができる、③研究成果を第三者に対して適切にプレゼンテーションできる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②~③ 課題討議1  
【研究テーマの抽出】
- ④~⑤ 課題討議2  
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥~⑦ 課題討議3  
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧~⑩ 課題討議4  
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議5  
【分析結果の検討】
- ⑫~⑭ グループ研究レポートの作成  
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表  
【研究科内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループディスカッションIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# グループディスカッションII 【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

グループディスカッションIIの到達目標は、①グループの各メンバーと協力して研究レポートを完成させる、②研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を使うことができる、③研究成果を第三者に対して適切にプレゼンテーションできる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②~③ 課題討議1  
【研究テーマの抽出】
- ④~⑤ 課題討議2  
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥~⑦ 課題討議3  
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧~⑩ 課題討議4  
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議5  
【分析結果の検討】
- ⑫~⑭ グループ研究レポートの作成  
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表  
【研究科内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループディスカッションIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションII 【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

グループディスカッションIIの到達目標は、①グループの各メンバーと協力して研究レポートを完成させる、②研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を使うことができる、③研究成果を第三者に対して適切にプレゼンテーションできる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②~③ 課題討議1  
【研究テーマの抽出】
- ④~⑤ 課題討議2  
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥~⑦ 課題討議3  
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧~⑩ 課題討議4  
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議5  
【分析結果の検討】
- ⑫~⑭ グループ研究レポートの作成  
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表  
【研究科内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループディスカッションIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションII 【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

グループディスカッションIIの到達目標は、①グループの各メンバーと協力して研究レポートを完成させる、②研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を使うことができる、③研究成果を第三者に対して適切にプレゼンテーションできる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②~③ 課題討議1  
【研究テーマの抽出】
- ④~⑤ 課題討議2  
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥~⑦ 課題討議3  
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧~⑩ 課題討議4  
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議5  
【分析結果の検討】
- ⑫~⑭ グループ研究レポートの作成  
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表  
【研究科内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループディスカッションIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループディスカッションII 【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

グループディスカッションIIの到達目標は、①グループの各メンバーと協力して研究レポートを完成させる、②研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を使うことができる、③研究成果を第三者に対して適切にプレゼンテーションできる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②~③ 課題討議1  
【研究テーマの抽出】
- ④~⑤ 課題討議2  
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥~⑦ 課題討議3  
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧~⑩ 課題討議4  
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議5  
【分析結果の検討】
- ⑫~⑭ グループ研究レポートの作成  
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表  
【研究科内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループディスカッションIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# グループディスカッションII 【夜】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループディスカッションIIは、2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられるものであり、研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法の習得を目的とする。

具体的には、グループごとに指導教員のもとで研究テーマを設定し、適切な思考・発想方法、分析手法を繰り返し検討する。これによって問題意識・問題の所在を明確化させる。そして、最終的にはグループ研究レポートの作成・報告を実施する。

なお、授業運営は小グループをベースとするが、グループディスカッションIとは異なり、学生の研究テーマの特性や意思を尊重した小グループをあらたに編成して行う。また、各グループには各学生の研究テーマに相応しい専任教員が指導にあたる。

グループディスカッションIIの到達目標は、①グループの各メンバーと協力して研究レポートを完成させる、②研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を使うことができる、③研究成果を第三者に対して適切にプレゼンテーションできる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【各自の研究プロポーザル(研究計画書)の確認】
- ②~③ 課題討議1  
【研究テーマの抽出】
- ④~⑤ 課題討議2  
【ライブラリーリサーチ(文献調査)の実施・報告】
- ⑥~⑦ 課題討議3  
【仮説の設定】【思考方法の検討】、【発想方法の検討】
- ⑧~⑩ 課題討議4  
【分析手法の検討】【分析手法の実践】(統計分析、ヒアリング調査等)
- ⑪ 課題討議5  
【分析結果の検討】
- ⑫~⑭ グループ研究レポートの作成  
【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】
- ⑮ グループ研究レポートの発表  
【研究科内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究レポートの作成・発表に係る貢献度で評価する(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループディスカッションIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。研究プロジェクトIの到達目標は、①研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行うことができる、②各自の研究テーマの目的と背景を的確に説明できる、③各自の研究成果のイメージを具体的に提示できる、である。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン  
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討  
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成  
【主指導教員への報告】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 林 秀美 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。研究プロジェクトIの到達目標は、①研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行うことができる、②各自の研究テーマの目的と背景を的確に説明できる、③各自の研究成果のイメージを具体的に提示できる、である。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン  
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討  
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成  
【主指導教員への報告】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 丸田 秀一郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。研究プロジェクトIの到達目標は、①研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行うことができる、②各自の研究テーマの目的と背景を的確に説明できる、③各自の研究成果のイメージを具体的に提示できる、である。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討  
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成  
【主指導教員への報告】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。研究プロジェクトIの到達目標は、①研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行うことができる、②各自の研究テーマの目的と背景を的確に説明できる、③各自の研究成果のイメージを具体的に提示できる、である。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン  
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討  
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成  
【主指導教員への報告】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。研究プロジェクトIの到達目標は、①研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行うことができる、②各自の研究テーマの目的と背景を的確に説明できる、③各自の研究成果のイメージを具体的に提示できる、である。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討  
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成  
【主指導教員への報告】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。研究プロジェクトIの到達目標は、①研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行うことができる、②各自の研究テーマの目的と背景を的確に説明できる、③各自の研究成果のイメージを具体的に提示できる、である。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討  
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成  
【主指導教員への報告】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。研究プロジェクトIの到達目標は、①研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行うことができる、②各自の研究テーマの目的と背景を的確に説明できる、③各自の研究成果のイメージを具体的に提示できる、である。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討  
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成  
【主指導教員への報告】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。研究プロジェクトIの到達目標は、①研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行うことができる、②各自の研究テーマの目的と背景を的確に説明できる、③各自の研究成果のイメージを具体的に提示できる、である。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討  
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成  
【主指導教員への報告】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。研究プロジェクトIの到達目標は、①研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行うことができる、②各自の研究テーマの目的と背景を的確に説明できる、③各自の研究成果のイメージを具体的に提示できる、である。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討  
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成  
【主指導教員への報告】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。研究プロジェクトIの到達目標は、①研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行うことができる、②各自の研究テーマの目的と背景を的確に説明できる、③各自の研究成果のイメージを具体的に提示できる、である。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討  
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成  
【主指導教員への報告】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。研究プロジェクトIの到達目標は、①研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行うことができる、②各自の研究テーマの目的と背景を的確に説明できる、③各自の研究成果のイメージを具体的に提示できる、である。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行なえるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員および特任教員の中から2名以内とし、その選定は主指導教員と学生の相談の上で決定する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン  
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定  
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討  
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮設の検討  
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成  
【主指導教員への報告】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、プロジェクト研究IIの到達目標は、①重要性の高い問題設定ができる、②適切な文献調査・データ収集ができる、③妥当な実証または論証ができる、④実践的な研究成果を提供できる、⑤独創性・創造性のある研究成果を提供できる、⑥論理性、説得力のある口頭発表ができる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【主指導教員への報告】

\* 口頭審査は別途行うものとする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 林 秀美 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、プロジェクト研究IIの到達目標は、①重要性の高い問題設定ができる、②適切な文献調査・データ収集ができる、③妥当な実証または論証ができる、④実践的な研究成果を提供できる、⑤独創性・創造性のある研究成果を提供できる、⑥論理性、説得力のある口頭発表ができる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【主指導教員への報告】

\* 口頭審査は別途行うものとする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名  
/Instructor

丸田 秀一郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、プロジェクト研究IIの到達目標は、①重要性の高い問題設定ができる、②適切な文献調査・データ収集ができる、③妥当な実証または論証ができる、④実践的な研究成果を提供できる、⑤独創性・創造性のある研究成果を提供できる、⑥論理性、説得力のある口頭発表ができる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【主指導教員への報告】

\* 口頭審査は別途行うものとする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、プロジェクト研究IIの到達目標は、①重要性の高い問題設定ができる、②適切な文献調査・データ収集ができる、③妥当な実証または論証ができる、④実践的な研究成果を提供できる、⑤独創性・創造性のある研究成果を提供できる、⑥論理性、説得力のある口頭発表ができる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【主指導教員への報告】

\* 口頭審査は別途行うものとする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、プロジェクト研究IIの到達目標は、①重要性の高い問題設定ができる、②適切な文献調査・データ収集ができる、③妥当な実証または論証ができる、④実践的な研究成果を提供できる、⑤独創性・創造性のある研究成果を提供できる、⑥論理性、説得性のある口頭発表ができる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【主指導教員への報告】

\* 口頭審査は別途行うものとする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、プロジェクト研究IIの到達目標は、①重要性の高い問題設定ができる、②適切な文献調査・データ収集ができる、③妥当な実証または論証ができる、④実践的な研究成果を提供できる、⑤独創性・創造性のある研究成果を提供できる、⑥論理性、説得力のある口頭発表ができる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【主指導教員への報告】

\* 口頭審査は別途行うものとする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、プロジェクト研究IIの到達目標は、①重要性の高い問題設定ができる、②適切な文献調査・データ収集ができる、③妥当な実証または論証ができる、④実践的な研究成果を提供できる、⑤独創性・創造性のある研究成果を提供できる、⑥論理性、説得力のある口頭発表ができる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【主指導教員への報告】

\* 口頭審査は別途行うものとする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、プロジェクト研究IIの到達目標は、①重要性の高い問題設定ができる、②適切な文献調査・データ収集ができる、③妥当な実証または論証ができる、④実践的な研究成果を提供できる、⑤独創性・創造性のある研究成果を提供できる、⑥論理性、説得力のある口頭発表ができる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【主指導教員への報告】

\* 口頭審査は別途行うものとする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、プロジェクト研究IIの到達目標は、①重要性の高い問題設定ができる、②適切な文献調査・データ収集ができる、③妥当な実証または論証ができる、④実践的な研究成果を提供できる、⑤独創性・創造性のある研究成果を提供できる、⑥論理性、説得力のある口頭発表ができる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【主指導教員への報告】

\* 口頭審査は別途行うものとする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、プロジェクト研究IIの到達目標は、①重要性の高い問題設定ができる、②適切な文献調査・データ収集ができる、③妥当な実証または論証ができる、④実践的な研究成果を提供できる、⑤独創性・創造性のある研究成果を提供できる、⑥論理性、説得力のある口頭発表ができる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【主指導教員への報告】

\* 口頭審査は別途行うものとする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名  
/Instructor

松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮設の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

なお、プロジェクト研究IIの到達目標は、①重要性の高い問題設定ができる、②適切な文献調査・データ収集ができる、③妥当な実証または論証ができる、④実践的な研究成果を提供できる、⑤独創性・創造性のある研究成果を提供できる、⑥論理性、説得力のある口頭発表ができる、である。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）  
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成  
【主指導教員への報告】

\* 口頭審査は別途行うものとする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

プロジェクト研究Iを履修済みのこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords